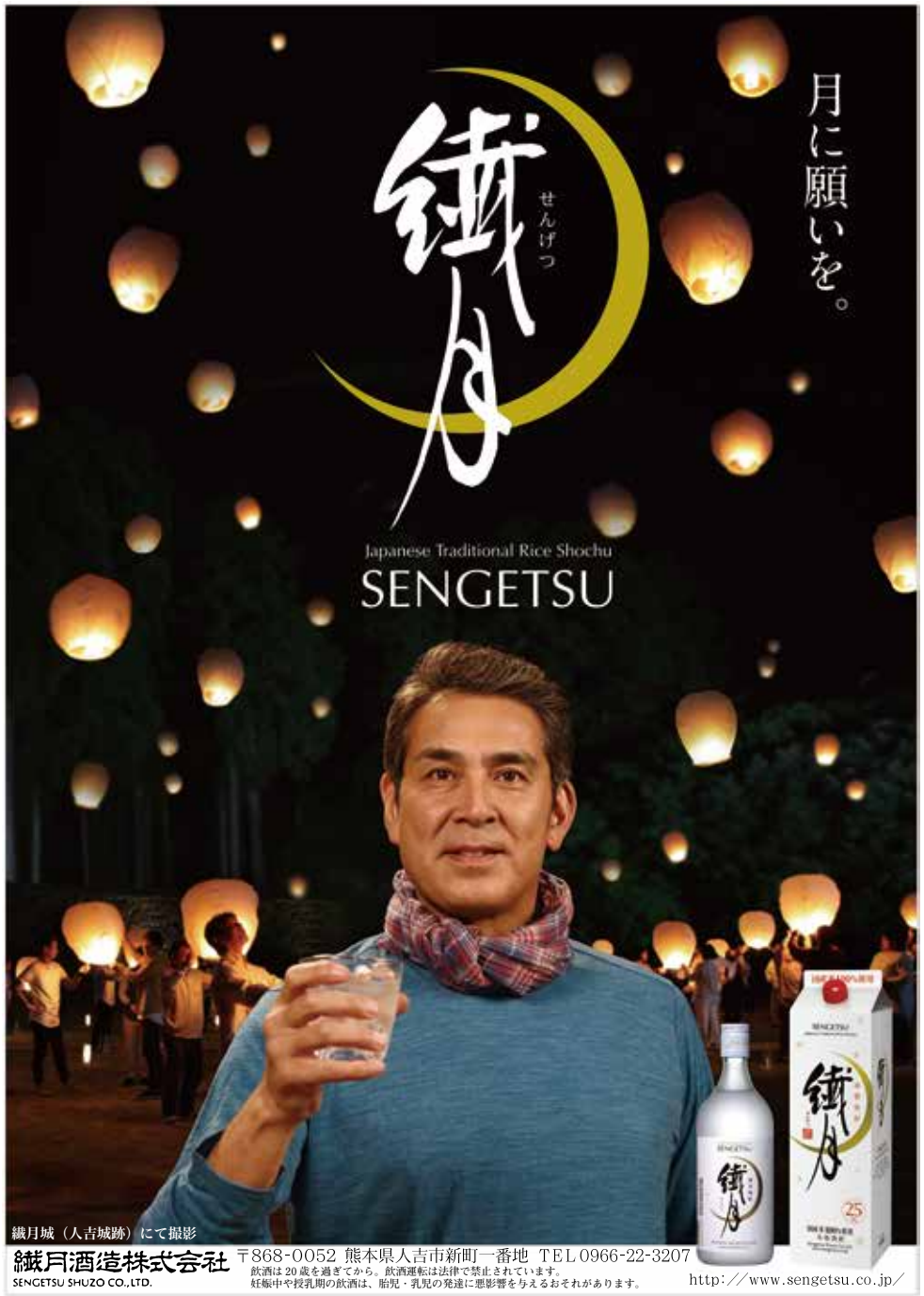
月刊くまがわ春秋 第12号 2017年3月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社 TEL 0966-23-3759 ／ FAX 0966-23-3759
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号 http://www.hitoyoshi.co.jp/ info@hitoyoshi.co.jp

定価 540円 本体500円



雑誌 81779−03-7
4910817790376
00500

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2017 3 第12号

球磨村の魅力

球磨村「一勝地の春」© 季平 剛二

今月の一言　『文読む月日』（レフ・トルストイ編著　北御門二郎訳）より

人々は往々にして、自己の欲望を制する力よりも、欲望の力そのものを誇る。なんという奇怪な迷妄であろう。

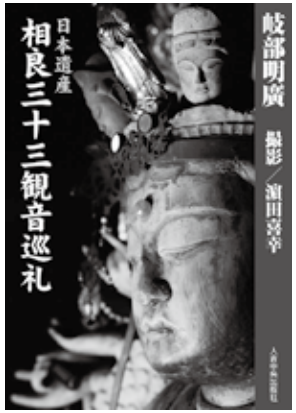
表紙写真

球磨村「勝地の春」（昨年3月）

撮影　季平剛二（人吉市）

さあ、巡礼の旅に出よう。

相良三十三観音と人吉球磨の「日本遺産」を熱く語ったずしりと重いガイドブック



■A5判／上製／400頁
■定価 2,100円（税込）　送料200円

〒868-0015
熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
TEL・FAX0966-23-3759
人吉中央出版社　info@hitoyoshi.co.jp

北御門 二郎・訳

トルストイ短編集

帝政ロシア時代の物語を北御門二郎の「心訳」で贈る

現代人へのメッセージ

新たに編集された「カフカーズの捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞踏会の後」「壷のアリョーシャ」「贋造クーポン」の5本を収録

■A5判／並製本／192頁
■定価 1,500円（+税）
送料100円

レフ・トルストイ／作
北御門 二郎／訳
表紙絵／田口宏昭
北御門すすぐ・たえ子／編

発行元：人吉中央出版社

― 3月（第12号）目次 ―

記憶の落ち穂⑫　坂本福治／17
今月の詩　⑫／18
「柴立姫神社例大祭、まもなく開催」／19
石橋を訪ねる④「岩永三平の世界」／22
球磨川の石「はまぐり石」／24
柳人があじわう漱石俳句⑫　いわさき楊子／25
定吉が行く⑫　鳥飼 博／26
くまがわ狂句　村上 鬼拳／30
ひろしの月刊ぎひょう／30
ツクシイバラを守る除草作業　合原康美／31
俳句大学「今月の秀句」／33
くまがわすじの考古地誌⑦　木﨑康弘／34
「あがっ段」⑩上杉芳野／38
「齢八十二年生の雑言㊤」冨永和信／40

「いまどきの大人」久馬　俊／42
「建築みてある記」森山　学／43
新・日曜釣り師心得①　宮原赤竿／47
方言を味わう⑨　前田一洋／50
みちのく南相馬紀行①那須智治／52
トランプとピケティ①　上村雄一／58
戦後の球磨郡で③　片岡 和紘／63
「外来語から学ぶ英単語」藤原　宏／65
東京オリンピック⑪　苅田吉富／66
いもご短歌会／67
「マイ・文庫本」白城松男／68
「柴立姫神社」補論／69
字図で見る球磨の地名⑪　上村重次／73
「おっとわっとあすび」松舟博満／76
字遊空間③　平岡優平／78
くまがわ学習塾③／81
鶺鴒短歌会／82
倉敷便り③　原田 正史／83
前号【くまがわ学習塾②の答え】／85
山に行こうよ！⑤／86

カラーページ

「大蔵山と段ノ峠」松野翔吾／3
野鳥だより②「ヤマセミ」小川 一弥／6
ほいくの絵⑪「神瀬保育園」／8
昭和の写真館⑨／9
駅・ものがたり⑫「渡駅」松本晋一／10

地方議会の議員定数削減

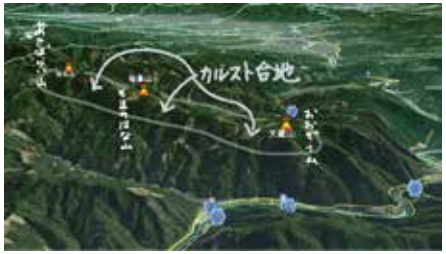
議員定数削減を求める意見が強まっている。①少子化にともない人口が減少している以上、その代表者も減らすべきだ、②財政が逼迫してきているのだから議会も予算を減らすべきだ、③議会が住民の代表機関としてその仕事をしているようにはみえない、④同規模の自治体並みに議員定数は減らすべきだ―などがその理由とされる。これに対して、地方分権化のなかで地方自治の重要性は強まっているのであって、職務怠慢行為は別にして、議員定数を削減する事情にはなく冒頭の意見は必ずしも適切でないとの反論も根強い。どう考えるべきだろうか。どれだけの住民数を議員は代表できるのかについては「解」はなく、結局、「結論のでない問題」とみるべきだろうか。議員の職務遂行能力は客観的に把握可能で、議員定数は「解」のある問題だと理解してよいだろうか。「解」があるならコンピューター（人工知能）に結論を計算させてもいいかもしれない。人工知能をめぐる状況を考えるとき、そういう意見がでてきそうでもある。なにごともコンピューターに計算させる時代だ。しかし、地方自治は「解」のある世界ではない。プロセスと納得の領域である。議員定数の議論もプロセスを踏みながら住民に了解される形で決めていかなければならない。首長の行政行動をその首長と同一の会派に属していることだけを理由にクリティカルにみようとしない状況が常態化するなら、議会の役割は低減し、定数削減の意見も発生する。首長の意見につねに反対する必要はない。けれど首長の恣意的行動を抑制する議会の本来の役割を果たすためには首長と議会の間には緊張が求められる。同様のことは地方議会のみならず国会議員にもあてはまる。「陣笠議員」は過去の遺物である。名望家政治はすでに終了している。

（春秋）

紹介したいふるさとの宝

大蔵山と段ノ峠（球磨村）

松野翔吾



大蔵山山頂石灰岩

まずは、大蔵（おおぞう）山を紹介します。大蔵山は球磨川と国道２１９号線沿いにそびえ、岩戸鍾乳洞の真上にあります。眼下には球磨川、国道、神瀬地域、芦北箙瀬地区、正面には八代海を一望できる標高約６３０ｍの石灰岩で形成された山です。大蔵山へは、国道２１９号線から村道神瀬大岩線、村道神瀬高沢線を通り林道段ノ峠線の途中から作業道を経て山頂にたどり着くことができます。大蔵山は神瀬小学校校歌にも歌われており、山頂にお尻の形をしたこぶが二つ並んでいることから「ひゅー山」や「おしり山」などの愛称で児童達の身近なものとして親しまれてきました。

山頂付近は、球磨村に広がるカルスト台地

の最西端にあたり、足元や周辺には様々な形のカルスト地形が見られます。また眺望も見事で山頂から水平線を見渡せば、北は有明海や島原半島が望め、雲仙普賢岳も見ることができます。西には八代海沿岸や天草の島々が望め、夕暮れ時には空と海を赤く染めた夕日が八代海を幻想的に映しています。南西には球磨村の譲葉牧場や水俣方面の山々が見られ、九州西側を１８０度以上のパノラマで見渡すことができます。足元にはカルスト地形、そして見渡す先には、球磨川と八代海といっぺんに望める場所は他には無いのではないでしょうか。

大蔵山山頂から球磨川と八代海を望む

次に段ノ峠を紹介します。段ノ峠は神瀬地域と高沢地域を隔てる峠であり、峠の先端が大蔵山にあたります。この段ノ峠には、

大蔵山山頂から見た八代海（三島・天草）

今はほとんど使われていない里道があり、神瀬地域と高沢地域を結ぶ生活路として昭和50年頃まで使われていました。当時の高沢地域の学生は神瀬中学校に通っており、朝夕の暗い時間に提灯に明かりを灯し、藁草履を履いて登下校していたそうです。また林業が盛んだった当時は、牛に木材を引かせて球磨川まで引き下ろしていた「出し道」としても使われていました。本誌の第９号で紹介のあった映画「虹の谷」の撮影現場として使われたとも聞きました。

段ノ峠から球磨川と八代海を望む

今ではほとんど使われていない里道ですが、神照寺の横から入りしばらく進むと昔のままの里道が姿を現します。出し道として使われていたこともあり、荒々しく大きく掘れ窪んだ所は、筋肉質の力のある牛が豪快に木材を引き下ろす様子や、途中の地蔵さんや水飲み場、眺望の良い所、クスノキや山桜の大木がある所などでは、当時の行き交う人々の様子を想像します。古くは芦北の海から塩を持ち帰った「塩の道」でもあったそうで、先人の苦労と歴史を感じることができます。「日本むかし話」のような話も聞きました。昔から段ノ峠には大蛇がいると言われ、山頂付近に差し掛かった時にゴーゴーと川の流れるような音が聞こえたそうで、近くに行ってみると岩の間をすり抜けて行く大蛇の大きな体が見えたとのことでした。

段ノ峠から大蔵山へは、この里道を通り登ることができます。ご興味のある方、山登りやハイキングが好きな方は一度いらしてはいかがでしょうか。

【まつの・しょうご／球磨村】

木の枝から川面を見つめる番（つがい）のヤマセミ。頭には大きな冠羽があり、黒と白の鹿の子斑が特徴。胸に茶色が混じるのがオス（右下）。球磨村渡にて

ヤマセミ

魚を狙ってダイブするオスのヤマセミ ❷

山翡翠　Megaceryle lugubris

視力抜群の魚獲り名人

撮影／小川 一弥

非常に警戒心の強い野鳥であるヤマセミだが、球磨村や人吉市付近では市街地でも観察できることを前号で述べた。

早朝から番（つがい）で現れ、縄張りとする木の上や岩場から魚を狙う。オスは水面上空からホバリングしたり水中へダイブ（写真上）したりして、オイカワ・ハエなどの小魚を捕獲する。

魚を咥えたら木や岩にたたきつけ、おとなしくなったところで頭から丸呑み。消化しきれない大きな魚の骨などを吐き出すことがある。

ダイブするときには、まぶたのような瞬膜（しゅんまく）を使って目を保護、遠いところから採餌することから視力は抜群と思われる。

捕獲した魚はメスに与えたり、砂地に作った巣穴で待つ子どもに届ける。その巣穴は球磨村渡付近の断崖でも見られる（写真下）。

【おがわ・かずや、球磨郡球磨村、全日写連・熊日フォトサークル会員、受賞作品多数】

魚を丸呑みするヤマセミ

高いところに掘られた巣穴

道路近くにも姿を現す（球磨村で）

シリーズ ほいくのなかで描いた絵 ⑪

神瀬保育園（球磨郡球磨村）

仏教保育（善い事をなし、悪いことをしない）を基本に、生きる力を育み、地域や保護者に元気を届けます。美味しい給食と少人数でしっかりと手を掛ける保育が自慢です。

「防災ヘリコプター」
おおいわ　りょう（6歳）

社会福祉法人　神照福祉会　神瀬保育園
球磨郡球磨村大字神瀬甲木屋角 1138-1
定員：20名　電話 0966--34-0633
開園時間：午前7時～午後6時30分

最近のおもな出来事

開催中

▽「人吉球磨は、ひなまつり」（人吉球磨地域一帯、～3月20日）
▽冬季特別展覧会「笠鉾大解剖Ⅱ～しゃれた町印・本蝶蕪～」（～3月20日、八代市立未来の森ミュージアム）

2月18日（土）
▽第17回人吉ふれあい100円商店街（人吉市中心市街地）

2月19日（日）
▽白いキャンバスハッピー祭（人吉市二日町同施設）
▽田舎の交流館さんがうら「そばカフェ」「竹灯籠の夕べ」（球磨村さんがうら）
▽第14回ひとよし春風マラソン（人吉城跡ふるさと歴史の広場）

2月25日（土）
▽人吉市東西コミセン短期講座「人権教育講演会」（同コミセン）

2月26日（日）
▽第43回人吉梅まつり（大畑町人吉梅園）
あさぎり町芸術祭「ステージ発表」（須恵文化ホール）

2月28日（火）
日本遺産人吉球磨シンポジウム「世界へ、未来へ」（人吉市カルチャーパレス）

3月4日（土）
▽八代市「どんかちゃんスペシャルおはなし会」（かがみ図書館）

3月4日（土）
▽JR九州新観光列車「かわせみ　やませみ」運行開始

3月5日（日）
▽ひなまつりイベント「着物ぶらり歩き」人吉市中心市街地一帯

昭和の写真館 ⑨

撮影／東儀一郎

旧坂本村を中心に昭和20年後半から40年後半までの出来事をカメラに収めていた故・東儀一郎さんが残した写真を紹介する。

昭和の「海棠祭り」

石水寺の石門

石水寺（曹洞宗）は応永24年（1417年）開祖。石門は明治43年（1910年）再建。撮影日は不明。「海棠祭り」の様子を写したものであろう。茅葺きの堂宇の屋根は昭和43年（1968年）に現在のものに改修された。

海棠（かいどう）はバラ科の花。中国原産で、5世紀に渡来したといわれる。桜（ソメイヨシノ）のあとに咲き始める。今年の海棠祭りは3月26日に開催される。

海棠の花が咲く頃の石水寺。西側には相良三十三観音7番札所である「石室観音」がある。

河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり

連載その⑫　渡 駅

熊本産業遺産研究会　松本晋一

図① 国道沿いの馬場道

那良川口から左手に見える球磨川は直線だが、釘しめ、猿飛ノ瀬から猪鼻、松花ノ瀬へと急流の光景が続く。付近はラフティング基地も備わる良き写真スポット（図①）でもある。沿岸の鉄道築堤（図②）は、旧渡小学校奥の石を切り出したもので、一勝地から渡までの線路に使用されたとのこと。

二つの鉄橋・渡船場

築堤のすぐ先には球磨川3番目の鉄橋が目に入る。この球磨川第二橋梁（179・5m、図③上下右）は今でも110年前の風情を保つ。鉄道局直轄で明治39年6月に間組が施工。第一橋梁同様ニューヨーク・アメリカンブリッジ社（1906年製）のトランケート・ピントラス構造は全国にも例がない。美しい石積みの橋脚を併せ持ち、近代化産業遺産33（平成19年経産省）の一つである。疑問点はなぜ、その場所に線路（鉄橋）を渡したか？恐らくは橋が架け易い直線の地形と川幅、さらにその延長線が村の中心（＝人吉方向）へと向かうためであろう。

図② 鉄道築堤

そのすぐ川上には旧渡し場（図④↑）があり、その100m上流には昭和9年に相良鉄橋（ワーレントラス橋・132m）が架けられた。この渡しは橋の完成まで芦北八代への主要路（人吉往還）であった。明治8年の記録では川幅60間、渡し賃は一人5厘、牛馬共1銭5厘。向う岸には鵜口観音（第5番札所）があり、球磨川絵図（1773年、図⑤）にも、この観音下に渡船場があり〝渡し観音〟と呼ばれていたという。渡し場周辺を茶屋、その山寄りは舟戸と称され、その名称が往時を偲ばせる。近くに球磨川下りの第二発船場と造船場が出来て、今でも川船の櫂を造っていた（図⑥）。

図③ 新旧の球磨川第二橋梁（三宅俊彦氏↓）

図④ 左上が旧渡し場↑、右は工事中の相良橋

この第二橋梁を渡れば、右に視界180度の別世界が拡がり、次の小川橋梁（全長36・8m、1906年汽車製造会社製）の後、沿線5番目の右岸駅「渡」（図⑦）に到着する。渡は昭和29年の三村（渡・一勝地・神瀬）合併前の中心地であった。

図⑤ 球磨川絵図

図⑥ 第二発船場の櫂製作

渡（わたり）駅

「渡」の駅名は球磨川と小川の二つの〝渡り〟に由来。駅開業は人吉本線開通時と同じ明治41年6月1日、八代駅起点45・3㎞、隣の那良口駅から2・9㎞、次の西人吉駅まで3・1㎞の距離。所在地は球磨村大字渡（旧字名一本杉）。初代駅長は朝長右一氏で月給26円、開業当時の1日収入は26円48銭の記録があり、奇しくもそれは駅長の月給と同じ額であったという。

⑦ 渡駅正面

大正元年の「九州相良」の渡駅の説明に「球磨川の水流と鉄道便に拠る外、交通極めて不便なり。住民は質朴にして農業の他、製茶養蚕を奨励し著著発展の傾きあり、殊に坑木は此の地特有の産物なりき。旅館には長池庵あり、球磨川第二鉄橋畔、風光絶佳の地にあり、夏季鮎の料理を以て旅客の下車するもの多し」とあり、この渡り口は架橋以前から、その明媚さが伺える。

図⑧ 構内の今昔（左端は砂利専用線　福井弘氏）

大正3年の青井神社大祭時に、往復2割引の乗車券発売と駅史にあるが、付近の住民は2里の道を弁当持参で人吉まで歩くため、乗車効果はなかったそうである。しかし同14年の大祭時には1日乗客1105名、祭りの三日間で2384名が列車を利用した。大正15年の新鉄道旅行案内にも「1日平均乗客186名。降客136名。最も多いのは10月の人吉青井社の祭礼、最も少ないのは入梅の5、6月。見るべき所に鹿目八重瀧（駅南方8㎞）、名物には焼酎（1升1円20銭）、鮎（1斤70銭内外）」とある。確かに駅前の島田には浦野焼酎屋（米の露）、舟戸には大島焼酎屋があったが、両者とも昭和16年に税務署の勧めで人吉の深野酒造に合併されたとのこと。大島家後方の旧渡小学校は明治29年に音楽家の犬童球渓が勤務した学校。

図⑨ 山寄りの貨物引込線の今昔（上下）

島型の2番ホーム川寄りに、以前は貨物専用2線と砂利積載専用の2線があったが、昭和49年に貨物線、同50年には砂利線が撤去された。当時は駅まで小川郷傍からトロッコ線路で砂利を運んだ。その前は砂利船による採取搬送が盛んだったとのこと。大正3年～13年の全国運送取扱人名簿の渡駅貨物取扱店には地下回漕店（地下三四蔵（みよぞう））の記載があり、木炭や材木を貨車積みしていた。

山寄り（駅舎側）にも貨物用の2線があり、大槻・境目方面からの木炭や木材、坑木を大量に積みこんでいた。駅舎に向かって左に木炭小屋、その先にはポイント切替所、小型起重機、石炭置場などがあり、木炭倉庫左の貨物線路側は大小の木材置き場（図⑨）があった。ここは山側・川側共に球磨川の駅らしい役割を持った駅と言えよう。国道をはさみ、反対側にはポンプ小屋、農協のレンガ米倉

庫があった。今も熊太郎神社が残る。

昭和20年前後には沖縄から疎開した人々、30年代は金の卵の中学生らが往来。昭和40年の水害では駅周辺は床上1mまで浸水したそうである（図⑩）。

昭和55年度の一日平均乗客数は定期客が103名、普通客が50名とのこと。同55年度の収入は1千572万円、1日平均4万3095円の記録が残る、しかし昭和61年に無人駅となり乗車券の販売はしてない。名誉駅長は東研志氏。近年、駅周囲は植林され、平成12年から球磨村商工会が事務所として駅舎を利用、木造駅舎は大幅に改造がなされ雰囲気だけが僅かに残る。近くに球磨川下り第二発船場、駅の東端にはラフティング基地が出来たが、駅への集客効果は少ないとのこと。

図⑩ 浸水した渡駅

図⑪ 一本杉橋梁

また駅入口右手には煉瓦張りと石積みのカルバート（暗渠・図⑪）が静かに佇む。橋梁表の名称「一本杉橋梁」のこの名は地元にしか知られていない。昔はここでハエ・鰻・川蟹採りも出来たとのこと。

図⑫ 焼酎「米ノ露」と昭和8年当時の煉瓦倉庫と三輪車（イワサキオート三輪・旭内燃機、浦野又男氏）

直ぐ駅前を国道219号線が通りバスも停車する、駅前に国道があるのは肥薩線ではここだけ。国道を渡ると旧浦野焼酎屋の煉瓦倉庫が右手に見える。昔はここで「米の露」を生産、当時の三輪車は絵葉書にもなった（図⑫）。同様の煉瓦造りは峰、今村地区（図⑬）の計3カ所にあり、言づてでは、鉄道開通当時、渡駅の人吉寄りに通称レンガ屋という場所（今村地区）で製造したそうである。これらの煉瓦倉庫は駅構内の一本杉暗渠同様、鉄道用の煉瓦を流用したものと思われる。

図⑬ 今村の煉瓦倉庫

＝渡駅にまつわるエピソード＝

○中川君枝さん（大正13年生）談話

小さい頃はくんち祭り、中川原のサーカスや唄、踊りを見に祖母と汽車で人吉に行った。城内で並んで1銭やって獅子面に噛まれた。人吉へはバスでも行った。つばめバスは子ども5銭、大人11銭でバスの方が高かった。このバスで人吉、那良口や一勝地にも行った。子どもば、からって球磨病院にも連れて行った。

盆と正月の人吉への買物は、反物は肥後銀行前の星野呉服店、松野着物店、益田呉服店、薩摩屋、お菓子は浜田屋に行った。

人吉の西小学校高等科への通学では汽車は4輌、朝7時20分の汽車に乗る時、爺さんから「早う行かんば、汽車のはっちくっぞ」とせかされた。峰の側からホームに上がると機関手は乗るとば待っとってくれた。中学生男子は一番前の車輌、女子が一番後ろの客車に乗った。夕方遅くなったら山口弁当で汽車弁当を買って食べた。修学旅行は高等科の時に鹿児島に行った。

○大跡志保子さん（昭和15年生）談話

小学校2年頃、渡駅から貨車に大勢乗ってくんち祭に人吉に行き、中川原のサーカスに行くのが毎年の楽しみだった。駅前には日通があり材木や木炭がたくさん積んであった。駅の傍には飴を

造る桑原商店、自転車屋、米屋があった。煉瓦の浦野商店、永田医院、吉田医院（茶屋）があった。明治5年生れの祖父や父から聞いたが、渡小校の後ろの山（つつし谷）から石を切り出し、一勝地・渡間の汽車道をその石で造ったそうである。また西郷さんの兵隊が人吉に来た時、隣の西さんところで食事を接待したという。

昭和35年頃、朝人吉に通う汽車は下関発の都城行きで、一番前の車輛には八代から行商の人達が大勢、立て籠を背負って乗っていた。恐らく海産物や野菜類であろう。高校2年の通学帰りに一王子神社の所を出てすぐ、ジーゼルカーとトラックがぶつかった。前の車輛が斜めになり、線路から外れそうになった。ぶつかった時はバリバリと音がしたが、やっとで外に出た。高校生らが大勢乗っていた」

○城山の踏切事故

昭和34年9月1日午後1時45分頃、城山トンネル傍の第11号踏切で人吉発熊本行622列車と湯前町の大型トラックが衝突。トラックは大破、ジーゼルカーも前の2輛が脱線する事故が起きた。（図⑭、ジーゼルカーはキハ163）

図⑭ 渡第 11 号踏切事故（福井弘氏）

〈参考資料〉
「九州相良（一名球磨案内）」渡駅　大正元年９月 25 日発行
前掲「興味を本位とした新鉄道旅行案内」大正 15 年９月　評論之評論社
「デイーゼル脱線熊本」昭和 34 年９月２日　毎日新聞
「日本鉄道請負業史」明治篇　昭和 42 年　鉄道建設業会発行
月曜特集「球磨の駅　渡」昭和 56 年９月 21 日人吉新聞
「各駅停車　全国歴史散歩　熊本県」昭和 58 年４月　河出書房
「渡駅」住民の心をつなぎ足を守るふるさとの駅　平成 12 年１月 19 日人吉新聞
肥薩線の駅シリーズ No13「時代と共に」渡駅　平成 21 年４月２日
「人吉球磨の交通史」平成６年 10 月　人吉球磨自動車協会
熊本産業遺産研究会「肥薩線の近代化遺産」２００９年　弦書房
「渡駅付近のむかしむかし」氏川平　くまがわ春秋　２０１６年９月号
○聞書き：浦野又夫氏、黒田イツ子氏、中川君枝氏　大跡志保子氏　氏川平氏

記憶の落ち穂

その ⑫

絵と文／坂本福治

一声（ひとこえ）の大縁

平成六年、人吉商工会議所の五十周年記念に「球磨川ふるさとの歌」の歌詞募集があった。FM中九州協賛。その頃、地元のシンガーソングライターの甲斐あきひろ氏が、FM中九州のラジオ番組の三十分を担当していた。

ある日、歌詞募集のことが話題になった。甲斐氏が「賞金十万円、俺も出そうかなあ」と言ったら、アシスタントの女性が語気を強めて「甲斐さんはダメですよ」と言った。その一言が、私の人生に変化をもたらした。

私の出る幕でないと思っていたのに一転、応募することになったのだ。甲斐氏は審査の側にいるのだった。当時、私は川辺川ダム反対の意気に燃えていた。当選などあり得ないと思っていたがダムに関する気持ちだけでも知ってもらいたくて原稿を出し、すっかり忘れていた。「グランプリ」との電話を受けたとき私は、砂漠を走る車のことを頭に浮かべた。アシスタントの一声がなかったら、「合唱曲球磨川」も、私の指揮もあり得なかった。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

今月の詩（うた） ⑫

人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第34号（2006年3月発行）　選・作文の会

命の重さ

岡原中一年　大平　瑞穂

誰も奪うことができない命
私の命
あなたの命

いじめ
それは悪魔の行動
あなたの近くにも
私の近くにも悪魔はいる

ゲームでは生きかえるけれど
人間も動物も死んだら最後

一人も死んでいい人なんていない
サインに気付いて
みんなで助け出そう
いじめに立ち向かい　戦い
最後は笑顔で
命の重さ
それは　ゲームじゃない

【評】残酷ないじめをテーマに、人の命の重さをとらえている。ゲームのようにリセットできない命の尊さを素直に表現している。

伝統行事

柴立姫神社例大祭、まもなく開催

柴立姫神社

柴立姫神社（球磨村淋地区）は出産、婦人病など性にまつわる問題を解決することで有名で、「柴神さん」の愛称で呼ばれている。例大祭、旧暦3月4日。今年は3月31日に開催される。

同祭りは道祖神、柴立信仰に基づ

柴立姫本尊

く伝統行事で、遠い過去の記憶が含まれている。淋地区のみなさんが、行事をとりおこない、参拝者を歓待している。同社の前は人吉街道。下流には「修理の瀬」が流れる。

祭事日を知らせる御札

奉納物

御札

祭礼の様子

一口メモ

①同祭りの由来

球磨村教育委員会は、

「昔、武士（公卿とも）の父娘が長旅の途中、父は、旅につかれ人の道に外れた娘を斬り、道端に柴を立てて立ち去った。

村人は娘をあわれみ、み堂を立て祀った。これにより婦人病や腰の下の病気が治った、伝え聞いて遠くからお参りする人も多くなった。

例祭日　旧暦　三月四日」

と解説する。「人の道に外れた」は父娘の姦淫を指す。

与謝野晶子の歌碑

うちびら谷

②同祖神信仰

集落の境、村内と村外の境界、道の辻などに石碑や石像の形で祀られる神で、村の守り神。子孫繁栄を目的にしていること、男女和合の場所を通過するのは許されない（タブーである）との考えから、石碑・石像は男女和合を象徴する形状のものが多い。近世では、旅や交通安全の神としても祀られている。

③柴立信仰

柴立は山の神で、外部との境界に、外部に汚れを消し（外部者の侵入を阻止することも含め）柴を立てた。外部との境界は「行き倒れ」の者も多かった。のちには旅の安全を目的にするようになった。

④交通安全

②、③と関係するが、お堂の前が人吉街道であること、下流に難所で有名な「修理の瀬」があることに注目したい。上村素次『まんちんたん』（昭和33年4月29日）92頁によれば、神社は、大正時代までは、下流の「うちびら谷」附近にあった。そこは「修理の瀬」の近くでもある。

（関連記事69頁）

石橋を訪ねる ④

岩永三平の世界

浜眼鏡橋

葦北郡津奈木町岩城

津奈木川にそそぐ水路に架かる。嘉永元年（１８４８）設造、施工の指揮をとったのは重盤岩眼鏡橋と同じく岩永三平と伝わる。道路事情の変化から現在は住宅街の中にあるが、建設当時は集落同士を結ぶ重要な道路に架かる橋であった。やや上流にも「上浜眼鏡橋」という石橋があったが、残っていない。

浜眼鏡橋（町指定文化財　昭和50年11月21日指定）

築170年を経てもびくともしない浜眼鏡橋

一般的な石橋にみられる壁石がなく基礎ともいえる輪石のみがアーチを描くシンプルな作りで、それゆえに石が宙に浮いているような不思議な印象を与える。

近隣住人の生活通路として現役で利用されており、路面の一部こそコンクリートが塗られているものの、建設当時の簡素な姿のまま、１７０年を超えてもびくともしないのは技術の確かさの証しか。

石材は凝灰岩。橋長３・８メートル、橋幅１・８メートル。

新村眼鏡橋
（町指定文化財　昭和50年11月26日指定）

新村眼鏡橋

葦北郡津奈木町岩城

浜眼鏡橋から西へ２００メートルほど進み、「浜平団地入口」という小さな看板の矢印にしたがって右折、山沿いへ坂をのぼる。

民家の横にある路地の奥の草むらに「新村眼鏡橋」の標識柱がかろうじて見える。近隣でも高齢者以外には知る人も少なくなっている忘れられかけた石橋だ。

路地と個人所有の水田に挟まれた細い水路にかかり、自家用に架けられた。津奈木町の石橋の中でもっとも小さく橋長１・７メートル、石橋本来の幅は１・５メートルだが、現在はコンクリートが敷設され２・４メートルに広がっている。

コンクリートが敷設される以前は、浜眼鏡橋と同じく輪石のみの石橋だったそうである。設造年は不明だが、小さくとも細部まで丁寧な仕事ぶりがうかがえ、技術も高いことなどから岩永三平の作と推定される。

（編集部）

球磨川の石
はまぐり石（球磨村）

編集部

はまぐり石（球磨村）

芋川（球磨川支流）の河口に美しい石がある。「はまぐり石」という。いつごろから、その名でよばれるようになったかは分からない。山あいの川にふさわしくない名だという人もいるようである。しかし相良は早くから海を知っていたし、「貝合わせ」も球磨川流域の各地で知られていたであろうから、その名に違和感はない。

荒々しい急流と瀬、そして巨岩。それだけではない。「はまぐり石」のように、たおやかな石もある。それが球磨川である。

★虎岩

はまぐり石の直上にある巨岩、下流からみると虎が横たわっているようにみえる。

虎岩

柳人があじわう漱石俳句
―⑫―

いわさき楊子

海嘯去つて後すさまじや五月雨

（漱石29歳）

海嘯は「つなみ」と読む。平成23年3月11日の東日本大震災による津波は記憶にあたらしいが、明治29年6月15日にも明治三陸地震がおそって多大な被害がでている。当時の記録によると38メートルの高さまで津波がきたという。テレビやラジオもなく、情報伝達の乏しかった時代に漱石が句に残しているということは、新聞などでよほどのニュースとしてとりあげられたことが想像できる。

五月雨（さつきあめ）とは旧暦5月ころに降る長雨。しとしとと降る雨がより哀しみを深くする。いまはあまり使われない「海嘯（つなみ）」という漢字表記にもひかれる。「嘯」にはうなる、なく、ほえるという意味がある。

漱石自身も大学院生のとき、東京で死者24名が出る大地震に遭遇している。そのとき地震の恐ろしさを実感したことは無関係ではないだろう。

掲句を先頭に40句を子規に送って評を仰いでいる。俳句の師として正岡子規を信頼していた。このころ漱石は自分の句稿末には「愚陀拝（ぐだ）」と俳号らしきものを書いた。

◇

熊本地震はこの漱石句を知ったあとに起きた。大きな揺れを体感して、いまさらながら繰り返される地震災害に憶（おも）いを馳せた。

筆圧の強い短いメールくる
ゆれ以来スイカを横に切っている

【いわさき楊子（ようこ）／川柳誌「裸木（らぎ）」編集人、熊本市】

人吉観光案内人物語

住吉則昭

定吉が行く

— 12 —

© Keiichi Murakami

九州相良藩「吉組」大番頭　鳥飼 博

KUMA1、KUMA2

国宝青井阿蘇神社では、早朝から清掃奉仕をされている方々を見る。落ち葉を掃き、草をむしる。大木が多いため、強風の後は少人数では大変な作業量である。

最終運行日の「KUMA1、KUMA2」

「国宝神社を美しく保つためには、もっと多くの清掃奉仕者が必要である」との主宰定吉の提案により、吉組では8の付く日は雨天を除き、午前7時からの1時間を青井阿蘇神社の清掃奉仕の時間と決めている。8日、18日、28日の月3回の清掃であるが、毎回7～10名が参加する。伊佐市や真幸からの奉仕者もいる。早朝の青井神社は、大木が多いお陰か空気が澄み切っていて、神々しさを感じる。季節ごとに異なる美しさを感じながら行う作業は、終わってからの気持ちも違う。神社の境内に入った瞬間から何かが違う。自分の心の持ち様なのか、それとも八百万の神たちのなせることなのか。これを感じ楽しむのも、神社に通うひとつの理由となっている。

平成28年4月の熊本地震による自粛ムードが漂う中、被災地への炊き出しは続けていた。地域のくま川鉄道もご他聞にもれず乗客数の激減に頭を抱えていた。5月中旬を過ぎた頃、創業当時からの車輌であるKUMA1、KUMA2の最終運行日にあわせ、吉組、ひとよし応援隊、よさこい人吉銀翔会の50名で列車の旅を企画した。くま川鉄道の永江社長によると、郡市民が片道だけでも乗車すると経営は黒字になるという話を聞いたことがある。

KUMA1、KUMA2の中での親睦会

人吉温泉駅―湯前駅を往復する時間を使っての親睦会である。炊き出しを続けているメンバーへの慰労会でもある。ギターやウクレレの演奏を聴きながらの親睦会には、ジビエの手料理や腕自慢のケーキ等が持ち込まれ、球磨村の【ファミ吉】夫妻も初めての参加であった。湯前駅では待ち時間を利用して、名残惜しい車輌をバックに記念撮影会で賑わった。3団体の中で最も元気がいいのは、やはりよさこいチームである。1往復だけでは呑み足りないと言い出したが、最終列車であったため、終点の人吉温泉駅でしぶしぶ下車し、大宴会もお開きとなったが、「飛ぶ鳥跡を濁さず」の教えの通り、車輌の清掃をしてKUMA1、KUMA2に別れを告げた。

映　画

芥川プロデューサーから定吉に電話が入った。

「7月から熊本市内で撮影予定だった長編映画『おじいちゃん　死んじゃったって』が、熊本市内の被災が予想以上に激しく、大手スポンサーの事業所も甚大な被害を受けているため、熊本市内での撮影は出来る状況にありません。撮影地を人吉市に変更したいが、様々な事情があり時間の猶予がありません。一から準備を始めるのに組織力のある吉組さんの協力が得られるなら、時間を短縮できるので実現できると思う。協力を得られるなら人吉市での撮影を決定したい。俳優さんたちのスケジュールもあり、時間が押していて最終決断の時を迎えています。定吉さん、一肌脱いで頂けないでしょうか?」

定吉は、人吉市、商工会議所、医師会、酒造組合等の協力を得ないと難しいので、担当者をすぐに寄越すように伝えた。

芥川プロデューサーと定吉の繋がりもFacebookである。会った事もない二人なのに、初めての電話でここまで話が進展してしまうのだから、素晴らしいと言うしかない。

準備担当の荒木プロデューサーが、すぐにJスタ（吉組の事務所）にやってきた。映画の世界とはこんなものなのかと驚かされた。荒木氏の服装を見て、そんな格好で挨拶回りをするのか?　という装いである。肩まで伸びた長い髪、色あせたTシャツ、短パンにビーチサンダルである。相手方に信用していただけるか否かは別として、吉組のメンバーである事の証明に、定吉が荒木氏の首に【吉札】を掛けた。定吉曰く「ちぃ～った、違うど。荒木さんな、今日から【荒吉】ばい!!」。私も頷いた。

荒木氏に続いて広報、資金、製作等のプロデューサーたちが人吉入りして来た。彼らの服装は荒吉とは違い、まともである。全員が挨拶回りやそれぞれの役目を果たしていく。定吉の動きにもいつもと違うものが見えていた。

三世代の家族ドラマであるこの映画には、それぞれの家庭や職場、主人公の彼氏が勤める居酒屋等、撮影場所が多い。定吉以下、すでに台本を頭に叩き込んでいたので、大まかな設定は掴んでいたものの、監督の思い描くイメージに合うものなのかが分からない。写真を撮り共有していく。総勢50名を超えるメンバーの宿泊所や食事等、課題は山積。

監督は「森ガキ 侑大」、30代の新進気鋭の監督である。ソフトバンクの「白戸家の人々」で一躍有名となり、日本競馬会やカップヌードルのコマーシャルも手掛けていた。短編映画では知られている森ガキ監督が、初めて挑む長編映画がこの作品である。森ガキ監督が、コマーシャル撮影において組んだメンバーが「森ガキ組」と言うそうで、吉組としても親近感が沸く。しかし、どちらも非社会的組織ではない。今回は大半のメンバーが無報酬または、資金提供までしているという。まだ見ぬ森ガキ監督に興味を抱かない方が不思議である。皆から慕われている30代の青年監督に早く会ってみたいという気持ちが膨らんでいった。

SLひとよしのお見送り

芥川プロデューサーは、長女と長男を今回の映画の新人プロデューサーに抜擢した。長女を資金担当、長男を補佐役とした。この二人は毎日挨拶回りを行っていた。荒吉は撮影場所を探して定吉とコンビを組んで走り回っていた。

7月中旬に待ちに待った森ガキ監督と助監督がJスタにやって来た。若い!!　スタイルも良く、肌つやも美しい。

「定吉さん、今回は本当にありがとうございます。一生懸命にいい映画を作りますので、宜しくお願い致します。」と森ガキ監督が、定吉の手を握りながら言った。【吉札】を見つけた監督は、早速、「これは縁起が良さそうだから、定吉さん私にも譲って下さい。」と言って、定吉から受け取った【吉札】を首に下げ、監督と助監督は限られた時間を無駄にしない様、すぐに挨拶回りへと出て行った。

【とりかい・ひろし／人吉市】

くまがわ狂句

村上鬼拳

腰の抜け　バンジージャンプどころかい
節約して　まアだ戦後の続く母
泊まり客　村長も来てご歓待
そらそうと　左遷などぎゃんしとっどか
山歩き　樹海イ迷い込もうした
色の良さ　ほんな入院だったろか
独占して　貴公二人のモデルかい
消し忘れ　故人も呼んだクラス会

【むらかみ・きけん／人吉市】

ひろしの…げっかん・ぎひょう

―国有地の売却と教育基本法違反の疑い―

財務省近畿財務局が９割引で森友学園に払い下げた大阪府豊中市内の国有地問題と、首相夫人が感動したという園児の「教育勅語」暗唱、「安倍首相がんばれ」宣誓などの教育問題で渾沌。

ツクシイバラを守る除草作業

球磨川ツクシイバラの会事務局　合原康美

球磨郡の河川敷に咲くツクシイバラ

皆さんは除草作業と言う言葉を聞いてどんなイメージを抱かれるでしょうか？　手入れの行き届いた庭や公園のイメージが思い浮かばれる方が多いのではないでしょうか？

私たち球磨川ツクシイバラの会は、熊本県のレッドデータブックに絶滅危惧種第二分類と登録されてしまった免田川から球磨川の錦町木上にかけて、僅かに残っている小さな可愛い花を守るべきではないかと有志が集い、結成されました。

会の立ち上げ以前から植物学者の先生や研究員の方々に勉強会を開いて頂き、ツクシイバラの遺伝子を守る為にはどの様な注意が必要なのか、何をやってはいけないのか、厳しくまた優しく教えて頂きました。

盗掘や環境の変化により絶滅に瀕しているこの花を守る為には、今まで守り続けてくれた球磨川河川敷の自然を守る事が重要なのだと知りました。

河川敷を見渡せば、葛の葉がツクシイバラを覆い尽くし、日が当らず痩せ細った状態が私たちの眼には可哀そうに写り除草作業に取り掛かりました。

我々が教えを受けていなければ、ツクシイバラ以外の雑草と思える草を刈り払いで根こそぎ刈り取っていたと思います。葛も古くから日本に根付いている植物です。他の植物が存

在することで昆虫たちがツクシイバラを食べず、絶滅から免れているのかも知れません。私たちは手作業で必要最小限の葛の葉を取り除く作業を行いました。その年の花の咲き方は眼を見張るものがありました。

十分な光を浴びたツクシイバラは、茎も太く花も一回りも二回りも大きく光り輝くように咲き誇りました。とても感動したのを覚えています、あれから10年の歳月が流れました。絶滅危惧種から脱却し注意を要する植物ではありますが、ある程度安心できる状態まで回復してきました。ひとえにご協力頂きました各団体の皆さま、地域の皆さま、ボランティアの皆さまのご理解とご協力のおかげだと感謝しております。

ボランティアによる除草作業

毎年色々な方のご意見を頂きながら会議を重ねてきましたが、十人十色と言いますように除草作業についてもいろんな意見が出て来ます。

・葛の葉に囲まれて咲くツクシイバラが素晴らしい

・自然のままが一番良いから何もしない方が良い

・野生種で生命力が強いから根こそぎ刈り取ってしまえばきれいな花が咲く

・観光で来られる人が多くなって来たからそれなりに整備が必要だ

・軽装で来る人が多いのでマダニの感染被害が心配だから雑草をきれいに刈り取らなければ

・貴重な植物だから純粋な遺伝子を守る為ハイブリッド化を防がなければ、などなど数え上げれば、きりがありません。

いずれも善意から出たもっともなご意見だと思います、しかしながら我々がご指導頂いた方向性とはかなりの違いがあります、残念ながら何が正しくて、どうすれば正解なのか判断できるほどの知識と経験を、私たちは持っていません。

私たちも悩み苦しみ考えています、皆さんの知恵とご協力とご参加をお待ちしています。

俳句大学 Haiku University

今月の秀句 Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

※このコーナーは、インターネットを使って世界に向けて俳句の発表する場を提供している「俳句大学」投稿ページからの転載です。

Haiku Column ❶

https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/

We would like to propose Two-Line Haiku, the combination of KIRE and TORIAWASE.
世界に二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れた Haiku を提案する

BIKKO

●

thé à la menthe
sur l'eau la plein lune à peine voilée

【Commented by Mitsunori NAGATA】

Il compose un poème de la lune sur thé a là menthe. Comme cette lune est si belle qu'il pense que'elle va voler. C'est très intéressant. Cela me fait penser que cette thé à la menthe est si savoureuse.

ビコ

●

ミントティー
その上に飛びそうな満月

【永田満徳評】

ティカップに浮かんだ満月を詠んでいる。その満月が美しいので飛び出るように見えたという見立てはおもしろい。いかにも美味しいミントティーであることを想像させる。

Marie Jeanne

●

sur ses mains
la cartographie du temps

【Commented by Mitsunori NAGATA】

'la carte de la main' signifie ligne de la main? C'est une découverte de sentir le temps passé a travers la ligne de la main. Triawase entre l'horrondelle qui passe sans se tromper de la saison et les rest mots est exordinaire.

マリージャンヌ

●

手の中に時間の地図
燕来る

【永田満徳評】

「手」の「地図」というと手相のことであろうか、その手相に生きた時間を感じるという措辞は鋭い発見である。季節を違えずやってくる燕との取り合わせは悪くない。

Benot-Robai

●

tiré de la tèrre un premier pissenlit
le printemps s'en vient

【Commented by Mitsunori NAGATA】

C'est extraordinaire de dire 'tiré de la térre' pour la pissenlit qui commence a pousser. Bourgeonner est très bien décrit.

ブノワ

●

土に引っ張られて最初のタンポポ
春が来た

【永田満徳評】

タンポポが生えてきた状態を土に引っ張られた結果だという見立ては秀抜である。春の芽吹きがおもしろく捉えられている。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

くまがわすじの考古地誌

（7）

球磨川筋の弥生時代⑦

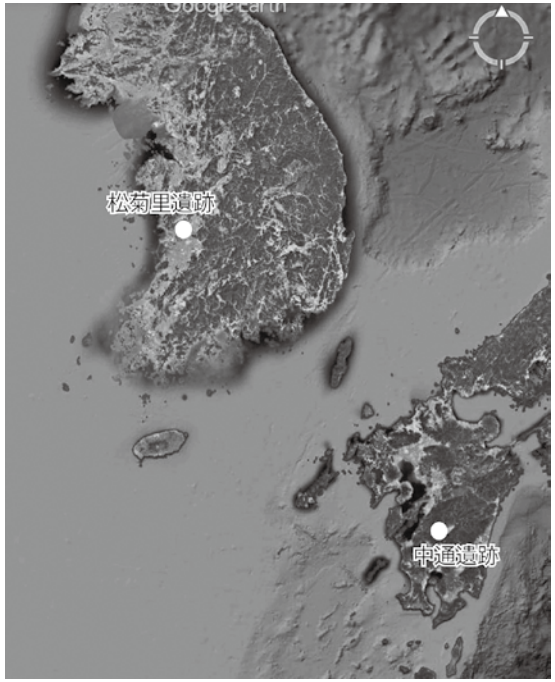
熊本県立装飾古墳館長　木﨑康弘

（NO.168）

中通遺跡、ある住居跡の話

「中通遺跡の発掘現場で、松菊里型の住居跡だ、と西健一郎さんがアドバイスしてくれたよ。」人吉市の歴史遺産課文化財専門員で、中通遺跡の発掘と報告書作成を直接担当した和田好史は、筆者にそう教えてくれた。

西とは、熊本県葦北郡出身の、縄文時代や弥生時代を専門に研究している考古学者。当時は、九州大学助手として九州大学校地で埋蔵文化財の発掘をしていた。また、中通遺跡の第一次の発掘が行われた一九九一（平成三）年には、文部省（現文部科学省）の科学研究費を得て行った「南部九州古墳文化の研究」の一環で、人吉市荒毛遺跡の地下式板石積石室墓を発掘していた。そのアドバイスは、その関連で、人吉市を訪れていた時のことだったのだろう。



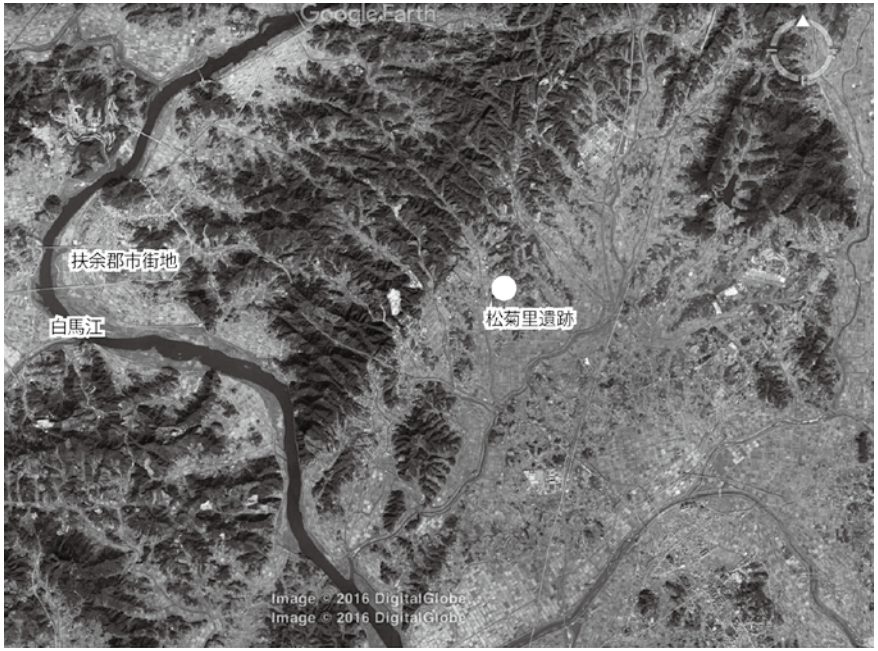
図①　松菊里遺跡と中通遺跡の位置関係

和田からその話を聞いたのは、二〇一五（平成二七）年一一月二一日のことだった。その日、熊本県庁地下大会議室では、日本遺産「相良七〇〇年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっとも豊かな隠れ里―人吉球磨～」の認定記念シンポジウムが開催されていた。その会場で、たまたま隣り合わせの席に座っていた和田に、筆者は、こう話しかけたのだった。

「今、中通遺跡のことを書いているけど、中通は、ナカドオリと読んで良かとね」と。

すると、和田は、「ナカドオリで良か」と応じ、さらには、冒頭の発言となったのだった。

「確かに、中央の炉穴の両隣りに柱穴のある円形の竪穴式住居跡があったけど、松菊里型とは穏やかでないな。」それが筆者



図②　松菊里遺跡と忠清南道扶余郡市街地

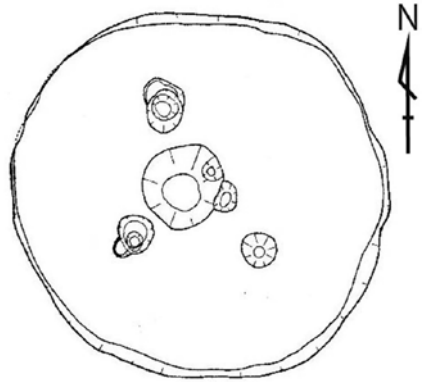
写真　松菊里遺跡の松菊里型住居

の率直な感想だった。なぜ穏やかでないのか。それは、こんな理由からだった。

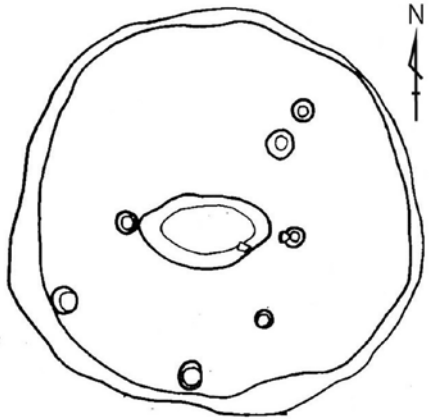
話題となった松菊里とは、韓国の忠清南道扶余郡草村面にある松菊里遺跡のことだ。無文土器（青銅器）時代前半期、約二五〇〇年前の、朝鮮半島の初期農耕文化を考える上でも重要な遺跡である。そこは、国立の中央博物館・公州博物館・扶餘博物館等が合同で一九七四年～七八年に四回に亘って発掘した遺跡で、その重要性から、「松菊里先史時代遺跡地」として国史跡（第二四九号）に指定されている。

この遺跡で見つかった住居跡には、ある特徴があった。それは、円形住居の床面中央に大きな穴が一つあり、その両隣りに一対の小さな穴が穿たれていたところだった（写真）。この特徴に注目したのが、福岡県教育委員会の中間研志。誌面の都合上、詳細は省くが、中間によると、「中央に楕円形土壙を有し、その両端に二主柱穴を持ち、他床面に主柱穴が認められないもの」が基本で、「基本的に正円形タイプのものに類似する日本例」を松菊里型住居と呼ぶという（文献①）。そしてそれを古期と新期に分け、さらに中央土坑両隣りの二つの主柱穴以外に四本以上の主柱穴があるものを「発展松菊里型住居」と呼んだ。そして、それが水稲栽培技術の伝来に伴って、日本列島にもたらされた、ということだ。

そこで、中通遺跡の該当する竪穴式住居跡二基を見てみよう。すると、本連載一六七＝本誌第11号＝で、一と五としたものがそれに当たるようだ。一は、直径三・五メートルの円形（図③）。穴は、地床炉両隣りの柱穴以外に、一つあるようだが、これは浅く柱穴ではないだろう。五は、直径二メートルの円形（図④）。地床炉を挟んで両側に柱穴があり、その他にも壁際に二つ、床面内に三つがあった。すべてが柱穴というわけではないだろうが、五は、発展松菊里型住居に当たるのだろうか。



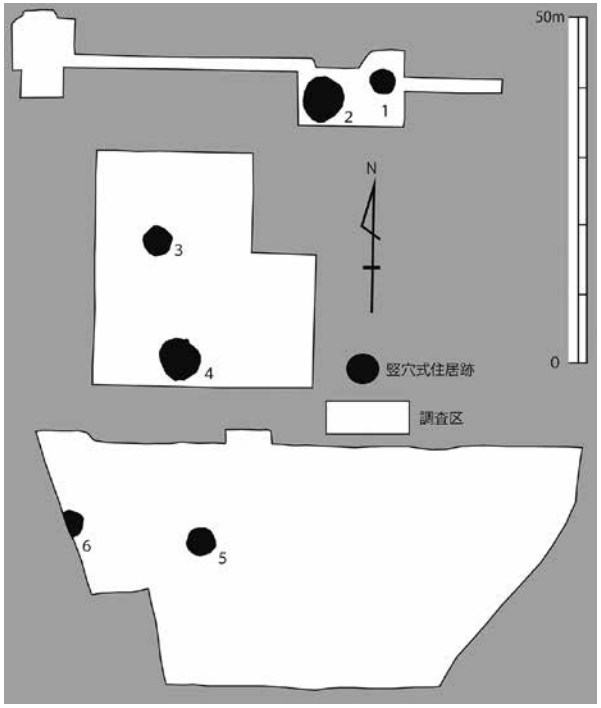
図③　中通遺跡の該当住居（1）



図④　中通遺跡の該当住居（5）

その是非はともかくとして、朝鮮半島の竪穴式住居跡に良く似た住居跡が球磨にあったことは、無視できない事実である。それがどのような経緯で、山を越えてやってきたのか。もしかしたら、球磨への水稲栽培技術の伝播とも絡むかもしれないし、細形銅剣と共に、興味が湧いてきそうなテーマとなりそうだ。

（つづく）



図⑤　中通弥生中期ムラの住居配置

文献①「松菊里型住居跡―我国稲作農耕受容期における竪穴住居の研究―」（『東アジアの考古学と歴史』（中）、一九八七年）。
文献②『中通遺跡』（人吉市教育委員会、一九九八年）。

上杉芳野の「あがっ段」⑩

ここは「家族」

永年勤めたあさぎり町の社協を退職して早一年を迎える。仕事をしていた時よりもボランティア活動が忙しかった。

福祉施設、サロン教室、各種団体への講演、保育園や幼稚園の発表会に親子交通安全教室などたくさんの依頼があり有り難く思った。

この歳になってもう勤めはしないだろうと思っていたのに、新しく立ち上がったばかりの施設から「ボランティアは今まで通り続けて良いから、今のままの芳野ちゃんで良いから、お年寄りの話し相手として仕事に来てくれない」と言って下さった。

私の生活の一部であるボランティアがこれまで通り出来るなんて、こんな嬉しい事があるだろうか。

でも、我が家には老いた父や母がいる。どうしようと、迷っていると主人が言った。

「まだ必要としてお声が掛かる間は行って良かたい。家には俺が居るから」。

何と心の広い人だろうかと二度惚れした。

娘も同じ系列の病院の看護師をして働いている。「私がいることを忘れんでよ。遅刻したりして迷惑を掛けなんなよ」と言って許してくれた。

私は、「わかっとる。ワイ（娘）が困ることはせんで～え」と言って仕事に行く決心をした。

そこは相良村にある有料老人ホーム求磨。現在5名の方が入所されている。84、88、90、90、92歳とみなさんお元気。

私と一緒に働くのは同じくらいの歳の3人で、そう、かしまし娘の3人組。夜はイケメンの男性が代わる代わるやって来るのも楽しみのひとつである。

朝・昼・公休を3人で協力しながらやっていく。朝勤の時は早いので我が家には朝の味噌汁と卵焼きなど、昼のおかずも用意をして出て行く。昼勤の時は夕方が遅くなるので夕食の準備もしておく。さて、その仕事場の1日は、朝勤の一番は味噌汁を作り入居者さんに声掛けをする。「トントン、おはようございます。ご飯の時間ですよ～！」と言いながらカーテンを開ける。すると「エエ～もうそぎゃん時間なァ～今行くばい」と車イスを手で操作しながら来られる人。「ありがとうございます。今行きます」と手すりにつかまりながら一生懸命歩いて来られる人。一人一人にご飯をよそい、お盆に載せて配膳をする。

施設最年長の堀川ツカエさん（92歳）と私

食べた後は「ありがとうございました。うまかったばい」とおっしゃる。昼食後とおやつの後は、笑い話で花を咲かせる。私の大きなお腹を見ながら「おいが子じゃろ～」と言われると「この子はメガネかけて毛のなか子が産まるっどな～」と笑う。

「ここは天国ばい。ここに入って良かったばい」と言って下さる。

私には新たなお父さん、お母さんに教えられる事も多い。私が勤務を終えて帰ろうとしているとご自分の部屋へ行かず「ど～いお世話になっとっとじゃもん、見送らんば」と言って「気をつけて帰んないよ～」と見送って頂く。

笑顔いっぱいの感謝のあるここは、私の家族である。

【うえすぎ・よしの／下腹でる子、あさぎり町上】

気のおもむくままに
齢（よわい）八十二年生の雑言 ㊤

冨永和信

「同期の桜」

平成二十八年（２０１６年）、私ども熊本県立人吉高校第五回生昭和二十八年卒業の同期生は齢八十二年生である。兵役はもちろん、学徒動員にかからなかったのであるが、終戦前後の混乱、食糧難の中で幼少年期に育った「新制」子供である。

よくもまあ、ここまで大過小過を乗り越えてやってきたものである。不幸にして彼岸の彼方に旅立った級友もあまたいる。

「今年で最後」「今年が最後の同期会になるかも」と云いながらしぶとく続けている同期会である。もうこのあたりで打ち止めだと言うほどの年齢を重ねてきた同期会に出席できる者は、他人様が羨むほどの幸せな人達ではないだろうか。

出席したくても健康などの事情で参加できない人の心情は他には計り知れない思いがあることを心しなければならないと思う。

「終活」のこと

さて、話は変わって「それではこれからどうする?」「これからどう生きて行くのか」という話になると、終末の生き方を示してくれる確実な処方箋などないのであるから厄介なことになってくる。もちろん終活に関する識者、諸先生による教導的訓話や経験談など多くの話は一応参考になるが俗々たる私にはどうも上質過ぎて共感出来ない。

これまで私は少なくとも運良く他力本願の力もあって幸いにして無事にやってきたが、これからのファイナルステージは自己努力という自己責任による後始末をして幕を閉じなければならない。自分には女房家内がいるから安心と思っていたら大間違いである。

家内曰わく「あなたが先に逝って私が後とは決まっていませんからね。その時はよろしくね」ときた。

そう言えば小生の周りでも奥方に先立たれた人が目立ってきている。古今東西の歴史は私たちに生きることに対する執着について教えてくれている。巨万の富と権力を持った者が己だけの不老長寿の秘を求めて、あらゆる手立てを使って空しい努力をしたが全て徒労に終わっていることを。

人間、生命（いのち）というものは有限であり、天命に委ねられている人知の及ばぬ自然の摂理つまり条理であることを知ることである。その中で自己努力即ち終活をしてなんとか折り合いをつけてゆくことが求められており、加えてその責任があるのではないかと愚考している。

誰しも五体不自由の寝たきりや認知症になってまわりに迷惑をかけたくない、苦しみや痛みをかかえながら終末を迎えたくない、と勝手な願望を持っている。

しかしながらそうはいかないのが現実であり人生である。人間には死に対する得たいの知れない恐れ慄（おのの）きがある。知ることのできない未知なる死への恐怖というものであろうか。

そこで俗人たる私共、いや私はこれまでの神仏とは無縁の数々の愚行に対する反省も無く厚顔無恥にも「どうか健康で、出来るだけ長生きしますように」と一心不乱に三拝九拝するのである。

「最後の頼み」

結局のところ普通の人間の究極の願い事はその辺りのところにあり、最後の願いは金や物ではなく健康願望に尽きるのではないか思う。もちろん異論違論は出る筈であるが、それも頑健でなくともそこそこに運動や旅行そして趣味活動の出来る程度の健康であれば、これにすぐる事はないことに落ち着くようである。それ以上望むのは強欲というものである。

数年前に全国的にＰＰＫなるものが一時流行した。これはご承知のとおりピンピンコロリという人生願望の最たるものである。

この時、私は身の程をわきまえずに異論を唱えた。人間の死を簡単にコロリと片づけるとは、虫けらや昔流行したコロリ病の死と同じではないか、と。

そこで対案としてＰＰＰ（スリーＰ）の提唱をして、それなりの賛同を得た。

３Ｐの最後のＰはポックリである。ポックリとはある日忽然と旅立つのである。まわりに迷惑を掛けずに忽然と自然の法則に順じて静かに消えるのであり、いかにも仏法の世界観無常観にそうしているではないか。

（㊦へ続く）

【とみなが・かずのぶ／人高五回生】

いまどきの大人

久馬　俊

世知辛い時代だ。誰もが仕事に疲れている。それを承知でいうが、いまどきの大人は少しだらしない。子どもたちに「ゲームなんかしないで外で遊べ」とか「勉強しろ」とか説教しつつも、自分たちは外で遊ばず勉強もしない。「子は親の背中をみて育つ」というが、大人たちがその見本をみせていないのだから、子どもたちが大人たちが希望する方向にすすまないとしても、それは仕方ない。パチンコや、ライン、フェースブック、テレビ・ゲームで時間をついやしていると、子どもたちも同じ行動するようになる。「いまどきの子ども・・・・・」とか「むかしは、外で遊んでいた」とかいっても意味がない。「むかし」は「むかし」であって「いま」でない。

それにしても、なぜ、「子どもは外で遊べ」なのか。「勉強しろ」はなんとなく分かるが、「外で遊べ」は考えてみると、本当のところは分からない。元気で健康であるためには外で遊ぶにかぎるというのだろうか。もしそうなら、ますます、大人からそうすべきだ。子どもたちには体育の授業があるが、大人にはそれはない。

思い出してみると、ジョギングやウォーキングをしている人たちをみて驚いた時期があった。時間をさいて走ったり歩いたりしている姿を奇妙に感じた。最近になってようやく、ジョギングやウォーキングは身体が求めているものだと知った。ヒトは身体を動かすことを義務づけられている。健康にいいとか身体を丈夫にするとかいった実利は関係ない。身体を動かすこと自体に意味がある。身体を動かさずとも、なにからなにまで他の人がしてくれる王様は人間らしい生活をしているとはいえない。

「ゲームはダメだ」も考えてみると、その理由は明確ではない。ゲームのどこが悪いのか。視力が落ちるからか。そのあたりのことは本当に分からない。子どもたちは、「楽しい」ことを自然に選んでいる。ゲームが面白いからゲームをしている。大人も同じだ。大人もゲームを楽しんでいる。「いまどきの子どもは・・・」ということなかれ。そのまえに「いまどきの大人は・・・」を考えたほうがいい。

【きゅうま・すぐる／八代市】

建築みてある記

植柳小学校旧講堂をあるく

森山　学

写真① 植柳小学校旧講堂の正面

今回めざす建物は、八代駅からであれば、八代工業高校前バス停で下車し、徒歩十分。八代市立植柳小学校旧講堂である（写真①）。西欧の古典的佇まいと、それでいてモダンな雰囲気が魅力の建物である。

そもそも「植柳」がどこにあるかと言えば、球磨川河口近くの左岸である。かつて八代平野には、球磨川三角州のために多くの入江があったと考えられているが、そのうちの一つが「植柳の津」である。妙見神または琳聖太子一行が寄港した、とも伝えられている。

また江戸時代には、当時の八代城主・加藤正方が相良藩にこの地を貸与したため、寛永三年（一六二六）以来「球磨お仮り屋」が置かれていた地でもある。明治四年（一八七一）に仮屋が廃止されると、三年後にはその蔵を活用して植柳学校が開設される。この学び舎が、明治四一年（一九〇八）に新たな校地を求めて現在地に移り、のちに植柳小学校に改称されたわけである。

現在の校地は、八代城主・松井章之が明治六年（一八七三）に作った隠居所であった。ここに球磨川堤防を背景とする庭「栽柳園」がある。滝石組からかつては直接球磨川の水を引いていた池泉に、駿河湾からの富士山に見立てた築山が添えられて

いる（写真②）。

旧講堂はこの由緒ある日本庭園を前に、モダンな装いで建ち上がったわけである。大正一四年（一九二五）、当時まだ新しい技術であった鉄筋コンクリート造によって。

一般に、関東大震災（大正一二年）以後、東京に建設された復興小学校が、鉄筋コンクリート造校舎の出発点だとされている。実は対岸にあった八代市立代陽小学校第三校舎は、震災の前年に着工し、震災の二週間後に竣工した鉄筋コンクリート造校舎であり、これを含め、震災以前に建設された例が、多くはないものの存在する。ただ、震災をきっかけに全国に普及したことは間違いない。

写真② 栽柳園

この新構法の普及の背景にあるのは、子どもたちの安全を願う想いだったろう。こうした大人たちの願いが急速に沸点に達した植柳小学校では、震災後わずか二年後に旧講堂を竣工させている。

その願いを実現させたのは、八代の産業と球磨川であった。石灰岩が産出される八代では、明治二三年（一八九〇）に日本セメント八代工場が球磨川河口で操業を始めている。その工場からセメントを安く供給してもらい、球磨川を上流へと運搬したわけである。さらに石灰岩を産出していた大築島は、当時、植柳村に属していた。

建物の基調は、ヨーロッパのルネサンス建築に代表される、いわゆる古典主義と呼ばれるものである。左右対称で中央を強調し、柱頭（柱上部の飾り）のある柱と梁で建物を支える。高さ方向は基壇部、胴体部、頂部の三つに分け、特に基壇部は頑丈で力強く作る。窓の上には半円アーチを設ける。古典主義では、このような「こうしないと建物は建たない」という基本原則を継承しつつ、それが見せかけだけの場合もあるし、あえてその原則に変調を生じさせる場合もある。

鉄筋コンクリート造は、石造建築の基本原則をどんな風にも打ち破ることが可能である。旧講堂は、まさに古典主義に変調をもたらすように

写真③ 中央ポーチの破風

デザインされたのである。

例えば中央ポーチを見てみよう（写真③）。通常、柱の上に梁がかかり、その上に屋根が乗る。屋根と梁でできる三角形が破風である。ところがこのポーチの破風は三角形ではない。また柱は梁を突き抜け屋根に至る。柱

写真④ 内部の腰壁

頭は梁の下にではなく、破風の中途に存在する。

両翼部の柱は、梁を突き抜け、アーチとも腰折れ屋根ともつかない輪郭で壁を立ち上げ、再び地上に帰ってくる。腰折れ屋根の選択は、直線的な幾何学の好みからだろうか。

基壇部は垂直に目地が入り、西欧風というよりは、木造の竪羽目板張りをコンクリートで再現したと解釈すべきであり、内部の腰壁ではその意図がより強く感じられる（写真④）。

そしてこの垂直線が、外壁装飾、内部の持送り（写真⑤）、舞台（写真⑥）の垂れ壁に反復される。この垂直線は幾何学的表現を意識したものである。あらためて見てみれば、ポーチの柱頭、梁の装飾（以上、写真③）、内部の柱頭、持送り（以上、写真⑤）

はすべて、直線的幾何学に変換されている。

これは過去の偉大な建築様式から離れ、新しい建築を模索していた二十世紀初頭の西欧の建築運動からもたらされた影響である。まだ本格的な近代建築へと移り変わり切れていない精神の産物である。そんな海の向こうの趣向がこの地に花開いたのは、植柳村出身で、のちに八代市長にもなる坂田道男氏の洋行が情報源だったとも言われている。

ただ同じような趣向のデザインを、日本製紙八代工場倶楽部（大正一四年建設）や、氷川町のまちづくり情報銀行（大正一四年建設）でも見ることができる。

講堂や図書館としての役目を終え、今は通常立ち入れない。対岸の代陽小学校第三校舎が解体された今となっては、子どもたちの安全を想い新構法に賭けた当時の大人たちの願いの結晶として、植柳小学校旧講堂をますます大切にしていきたいものである。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

写真⑤ 持送りと柱頭

写真⑥ 舞台：手前に垂れ壁。舞台背景は尖頭アーチ

写真⑦ 裏口へ続く赤い橋

新・日曜釣り師心得①

いつかは湯島へ

宮原赤竿

30歳の頃から磯釣りを始めた。海岸線の岩場というより、港から瀬渡し船に乗って島の岩場（磯）で釣りをするのだ。早朝から夕方まで磯に立つと、ギンギラ輝く太陽の攻撃で顔は真っ黒になり汗は半端ではなく滝のように流れる。手にはポカリスエットが必需品となり命がけの磯の上なのである。

これからの季節は近場の釣りなら後ろの森の中から聞こえるウグイスのさえずる鳴き声や、離島では鳥と釣り人の掛け合いが釣りの楽しみ。独りで釣りをしていてもカラスやトンビが声を掛けてくれるし、遠くを通る大型船のエンジン音が音楽に聞こえ、上空から真っ逆さまに突っ込むカツオ鳥が目を楽しませてくれる。海面にはカモメが漂い、澄み切った青空にはこれまでに見た事のない雲のスケッチも見飽きることのない風景なのだ。

さあ、釣りに行こう。

有明海の湯島へ釣り大会に行こうと声がかかり、さっそく仲間2人に声を掛けて日曜日の集合時間を待った。待ったというより集合時間の午前1時まで爆睡の私。

青井さん前の自宅から一路天草の

心洗われる磯からの眺め

野釜港へ向けて出発。人吉から松橋まで高速道路。宇土の山本釣具店で釣りえさを買い込んでいるとき、見てはならないものを見た。「40％割引」。この商品表示に弱い私だ。「買っちゃえ」とばかりに釣りの中着を買ってしまった。店内でその服を着込んで、さあ、再出発。そこから走ること40分程で野釜港へ着いた。

釣り大会の受付をすると申し込みが2人の枠しか残っておらず1人は行けないらしい。

ボクが残って皆さんを見送りますと、かっこつけて言ってみた。大会に向かう渡し船は賑やかに出港した。

シンミリの私。どこに行こうかと思って山本釣具店の大矢野店に行って相談。

教えてもらった松島へ向かった。

第2便の湯島行きの船に乗り込む一柳さんたち。見送る赤竿でした

ゴンドラを使って釣具を下ろすという、まか不思議な釣りの瀬渡し船「勢力丸」に乗り込んで「ネズミの3番」という磯へ乗った。朝の8時を廻っていた。流れぬ海面にマキエサを投入し、朝ご飯の弁当を口にほおばり冷たいお茶をがぶ飲みだ。

海面の白い泡が少し右に流れ始めた。そこで仕掛けを回収しようと巻き上げている途中に魚がヒット。

40～50センチ程の魚体が見えて横走りしていく。

海面から浅いタナで食ったので「ダツか⁉」。

20m走って魚は止まり、グイグイ引く。竿が引き込まれそうになり道糸を出して竿を立てる。それから魚がこちらに来る。リールを巻く、巻く、と又沖へ魚が走った。

「フワ～ン」。釣り人はこの感覚が一番嫌いだ。バラシたのだ。ボラだったか？　いや大チヌだったのか！

第1便の船で大会に臨んだ地下さんが第2位の大チヌを釣り上げた

やっぱし！　大バラシはショックを残す。再度水を飲んで竿を振る。何度も何度も反省の磯の上である。

お昼を過ぎた頃、満潮になりメイタ（チヌの子・30センチ）を2枚釣り、20センチくらいのメバルをクーラーに忍ばせて磯を海水で洗った。湯島での釣り大会に行った仲間が野釜港に帰ってくるのでお迎えにいかなければならないのだ。お世話になった船頭さんに礼を言って慌てて野釜港へ向かった。

第1便の船で大会に参加した地下幸二さんが大チヌを3枚釣り上げていた。検量したら47センチもあり第2位と好成績。第2便で帰ってきた一柳優治さんは、チヌやメバルにガラカブと1日釣りを楽しんだことがわかる。大会参加者の方々に挨拶して、さあ、帰ろう人吉へ。

一緒に釣りに行った地下さんや一柳さんが釣った魚は私に置いていってくれた。

ありがたいことだ。

いつもお世話になっている西崎さんや中川さんが魚を取りに来てくれた。「これはボクが釣り上げた大チヌですよ」などとは言わなかったが「湯島の釣り大会で仲間が釣り上げた魚です」と言って手渡した。

翌日、ボクの釣った小魚は田野の前田一洋先生の胃袋へ。

あ～、湯島へ行きたかったなあ～と、今朝も思っている。

【みやはら・せっかん／人吉市】

方言を味わう⑨

球磨弁の接頭語&接尾語

前田一洋

「向かいの爺さんも、とうとうチィ死んがござんしたげな、なーまわりゃま、良か人でござんもしたて。今夜が夜伽ぎで、明日が葬式でござんもすげな。ほんとーん惜しい爺さんでござんもした。なまんだぶ、なんまんだーぶ」。一生に一度の〝旅立ち〟であってみれば、できればこんな評価が欲しいところ。

しかし日頃の行い次第では、かなりニュアンスが違ってくる。そして語調も苦々しく、

「なん、あのこすっパチのコキ死ないたてや、どぎゃして。えーブタ小屋の屋根からサデこけて、チョレーキッこじろ。ほんとん、ちっとやソットのこすタクリューじゃなかったでぬう。おがまだ子供の時分に、トトしゃんの使いで金槌よば借っきゃ行たとじゃら」

「なにィ使うとやちゅうて尋ねやるもんじゃっで、釘ば打ちなっとばいちゅうたとじゃら。そしたいばあん爺コツの、釘ども打てば金槌のそじっで貸しゃならん、ちゅうてサデかやさいたとじゃっでまい。そしたもんじゃっで戻ってトトしゃんにすぎゃ言うたいば、そんないば家んとば使わんばんたいちゅて」

「そぎゃしたふやで、銭もちっとそっとの貯めようじゃなかったとげな。そいどん夜伽ぎの晩から縁家内揉めのウッぱじまって、そいくさそいくさ、飯台よばイッパチがやたぐとしなって、みゃんちヒンチ喧嘩げなたい」

○言葉の帽子や履物

この会話の中で、コキ・サデ・チョレー・キッ・ウッ・イッパチなどが接頭語。つまり言葉の帽子やリボンみたいな接辞。また接尾語方はパチ・ソット・タクリュ・コツなど。こちらはちょうど足袋とか靴のような役割。

さて、後者の評価を頂戴したことを〝旅立ち〟の道中で知ったこすタクリンのオンジョ爺、さぞかし腹を立てやいたことであろう。

「ゆうと腹んキッテキッテキチキッわく。おが食うもんも食わじに貯めた銭よば寄って集ってヒッ遣うてくれおる。いんま見とれ盆にゃ化けて出てくるっで」などと言って。

球磨・人吉地方の人が立腹した時の腹は、「立つ」のではなく「沸く」、つまり煮えクリ返るのであろうか。その沸き様も、腹のキッ沸くから、さらに「キッテキッテキチキッ沸く」などという、まさに豪華版までもが。

標準語などと呼ばれる全国共通語に比べ、方言はまことに表現力が豊かである。つまり言葉が生き生きとしているのだ。それは、こうした接頭語や接尾語（辞）が、ずんびゃーあるからである。遺産分けが元で始まった内輪喧嘩で、ちゃぶ台をひっくり返すにしてもサデ・イッパチ・イックッ・バチグッなどがあり、茶碗や皿がチンぐわらりウチ割れてしまう様子まで想像ができるから愉快である。

○クソばかタレ

それではもう少し、よそ様のもめ事の様子を拝見させて頂くことにしよう。子ノタまわく、「屁の音とよその内輪喧嘩は太かれば太かしこオモしか」と、古典にもある通り。

「おどりゃー、えしれん事サデかやしおれば、ウチ殺れてくるっぞ、クソばかタレが。どしこ血の濃いかちゅうたっちゃ、わがどめにゃビタ一文呉れはなるもんか。養老院にナン込むまじゃ、おいぎゃのよめごが一人っで爺どんのめしのしこから、べぇ小便の世話までしてきたとざい。わが共がよめごが、そぎゃん事したもんの一人っでっちゃおったや」

「おまや兄にゅでおいさみゃん、今の法律だり知らんとな。ゆう、そんくりゃのキッ魂で役場勤めどもがでけたもん。遅れず休まず働かず、ちゅうくちじゃったとじゃろたい。そぎゃんもんよば月給ぬすどちゅうとばい」

おどりゃーは、己れらはの崩れた語で喧嘩を始める時の常套句。それにはウチ殺すという語句が付き従う。兄弟は他人のはじまりとは申すものの、何という浅ましさであろう。

この口喧嘩はまだ延々と続くのであるが、残念ながら紙数の都合で、ウチ切ることに。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

支えて　支えられて　有難う

―みちのく南相馬紀行―❶

人吉アマチュア無線クラブ 会長　那須 智治

平成28年7月15日、午前7時47分の高速バスで新八代へ、九州新幹線に乗り替え博多で降りる。地下鉄で福岡空港へ、2時間のフライトで午後1時10分仙台空港に着く。こんなに早く到着したことが嘘のようである。約55年前、私が歯科大学生の頃、人吉から福島の会津まで行くのに4日ほど必要だった。

報告書「みちのく紀行」（2016年9月）より

世界の各地でテロが起きてから3年間ほど旅行を控えていたが、日本各地の移動がこんなに安全で早く、安価で便利で、疲れることもなく目的地まで運んでくれる素晴らしさを再認識した。だが、いつかテロが起き破壊されないことを案じているもう一人の自分がいた。

今回の南相馬市訪問の旅、発起人の田中信孝前市長に同伴したメンバーは、過去に南相馬市へのボランティアに参加された宮川 続氏、永田勝巳氏と私の3人だ。私だけが初めての参加である。

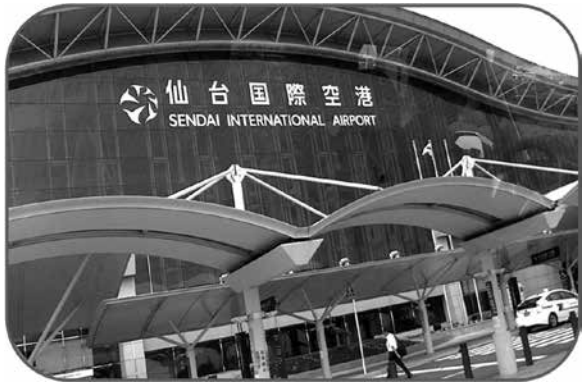
宮川氏

田中氏

筆者

永田氏

仙台空港に到着。平成23年3月11日、東北地方太平洋沖大地震に発生した大津波が空港を襲い、航空機や多くの自動車が滑走路上を流されていた日のテレビ画面を想い出していた。その災害の様相が脳裏に焼き付いているが、今は復興し何事もなかったような活気ある仙台の表玄関であった。



薄曇りの空港にはレンタルカーが待機していた。永田勝巳さん（地方公務員、休暇を取っての参加）の運転で常磐自動車道を南下、約40分で南相馬市原町に到着。ここから南相馬市、相馬市での私の活動が始まった。永田さんは穏やかな方であり全行程の運転を引き受けていただいた。

私はこの時点で、南相馬市の大津波と東電福島第一原子力発電所の爆発による放射能拡散被害以外は何の知識もなかった。今回の訪問の旅が終わってから過去の記事や記録を読み直し、聞き勉強した。

○南相馬市訪問の目的

平成23（2011）年3月11日東北沖で発生した地震と大津波により東日本太平洋沿岸は大被害を受けたことはまだ記憶に新しい。その時、多くのボランティアと全国の地方自治体、海外の復旧支援が被災地に向かった。人吉市も10月から11月にかけて民間人を募り1週間ごと7名、計7次の復興支援ボランティア「南相馬応援人吉隊」約50名を派遣した。

人吉市はなぜ南相馬市を支援地として選んだのだろうか

当時の田中信孝人吉市長は、被災地を北から7か所を視察し南相馬市を選んだ。この地区はどの地区よりも四重苦を持っていた。それは大地震・大津波・放射能汚染、それに風評被害であった。田中氏は人が離散を強いられ、人が立ち寄れない放射能の被害の一番大きい地を選

んだと説明した。そこで避難された仮設住宅の人々の心の支援のために人吉市のボランティアを多くの仮設避難所に送った。避難所の集会所サロンで仮設住宅の入居者の方々と人吉市民の心の触れ合いと交誼が5年後の現在まで続いている。

土砂崩れの辰野地区と崩壊した阿蘇大橋（NHK参考資料）

地震で崩壊した益城町（熊本日日新聞　参考資料）

熊本地震

平成28年4月14日、16日に熊本、大分を中心に震度7の大地震が襲った。人吉市も昭和43年のえびの地震以来の強い地震（震度5弱）が襲った。被害は微々だったが人吉市役所は壁が崩壊し、元商工会議所の鉄筋コンクリートの建物が使用禁止になった。私の歯科医院は築48年になる木造建築だが倒壊は免れた。熊本地震と命名され余震に怯える毎日が続き、8月中旬までに余震は2000回を超えた。地震の規模では日本一と報じられた。内陸部の大地震で津波がなく、放射能の危険もなかったが熊本市周辺の建物の被害は大きかった。

東北大震災発生後、全国の全ての原子力発電所が停止したが、人吉から70キロ南西にある薩摩川内市の九州電力原子力発電所は平成27年に日本で一番に再稼働したばかりだった。誰しもが一時停止し点検があると思っていたが、すぐ近くの長島町まで強い余震があったにもかかわらず九州電力には何の動きもなかった。

熊本地震発生後、4月22日に南相馬市から10tトラックいっぱいの救援物資と多額の義援金が人吉市に送られてきた。その中には仮設住宅で今なお不自由な生活を強いられる方々からの心温まる有難い義援金もあった。5年前、人吉市民が南相馬市に贈った支援に対して今度はいち早い温かい支援が贈られてきた。今回の訪問は南相馬市と被災された人々が熊本地震に贈った支援に対するお礼の行脚と固い絆の心の触れ合いの旅であった。

私は今回の同行には二つの旅の目的があった。東北大震災直後、どうしても東北の地に赴き、この体で震災現場を知り体験し、罹災された人々の手助けの活動が出来ないかと思っていた。平成23年6月8日、熊本県歯科医師会から津波で犠牲になられた身元不明の方々の確認に出動要請があった。が、その日は熊本県立人吉高校の歯科検診の予定で約800名の生徒が待っていたので次の出動に回してもらうことをお願いし歯科検診に行った。既に全国の歯科医が検視を勤めており熊本県歯科医師会からは5名の先生がその任を勤めた。その後の出動要請は近県の歯科医師がその任務に当たることになり1回で中止になった。参加できなかった事に申し訳ないと常々どこか心に残っていたので、機会があればボランティアとして参加したいと思っていた。

もう一つは、平成27年12月6日に人吉アマチュア無線クラブ創立40周年記念事業を行った。そのメイン事業として「災害とアマチュア無線」というシンポジウムを企画した。その際、東日本大震災を体験された南相馬市、相馬市のアマチュア無線家の紹介と災害時の無線救助活動の体験や資料の提供を田中前市長にお願いしたら、自ら直接現地に赴き無線家を紹介していただいた。その資料と阪神淡路大震災時の資料をもとに「災害時、電源を失った時、情報伝達にはアマチュア無線が最も有効」と結論を出してシンポジウムは終わった。

さらに創立40周年を記念して「人吉アマチュア無線クラブ創立40周年記念誌」も出版できた。

5月、田中前市長から南相馬市の救援物資や義援金へのお礼の旅へ

人吉アマチュア無線クラブ
創立 40 周年記念誌

行くが、一緒に行かないかとの誘いの声がかかった。私は南相馬市のアマチュア無線家の方々にお礼をいう機会を待っていたのでこの誘いを受けて同行することにした。これまでの資料提供のアマチュア無線家の局長にお礼と記念誌を直接届ける為に、さらに東北陸奥のアマチュア無線家と人吉との交流ができればとの思いで同行した。

○千倉の仮設住宅へ

鹿島区に着き先ず仮設住宅を訪問した。仮設住宅は南相馬市鹿島区千倉応急仮設住宅Ａ４号棟という。避難所からこの仮設住宅に入所直後は、放射能に汚染された小高地区の94世帯２５０人の方が不自由な生活を送っており、現在も50戸の仮設住宅に約１００人の方が住んでいる。この５年間に経済的に余裕のある方は、より安全なところに住宅を新築され、または復興支援住宅や借家を見つけて引っ越し人生の再出発を図っている方が増えている。ご多幸を祈りたい。

この仮設住宅は鹿島駅の東側にあり、駅をはさんで真向かいに私たちが2泊3日民宿させていただいた加藤家がある。仮設の集会場で自治会長の泉勝明さんはじめ7名の役員さんと南相馬市鹿島区地域協議会会長(かしま一本松を守る会会長)の五賀和雄さんが笑顔で迎えてくださった。

千倉仮設住宅集会場（サロン）での五賀和雄さんの挨拶

南相馬市役所訪問

震災後人吉市から派遣された多くのボランテアの方々が、このサロンに赴き仮設住宅の人々の心の支援をした。感謝の気持ちいっぱいの笑みで迎えてくださった。久しぶりに訪問した田中、宮川、永田氏と話が弾んだ。この仮設の人々から今回の熊本地震に義援金と南相馬市から多量の救援物資が人吉市に届けられたことは先述した。（でも私は出発前の調査が不勉強で、この時点では南相馬市の状況がさっぱり分らず話を聞くだけでの訪問に終わるかと思った）

今回の人吉市に贈られた救援物資の一部は、被害の大きい熊本市周辺の自治体に送られ役立てられた。一連の行動に田中前市長のお礼と挨拶後、私の自己紹介の番になった。私は初めての経験であり、どう対応をしてよいか困っていた。

今回の同行の動機がこの地のアマチュア無線家へのお礼と記念誌を手渡すこと、無線家の交流を楽しみにしていることを説明し、他に何か無いかとサロンの壁を見渡すと「認知症防止五ヶ条」の文言が目にとまったので「その五ヶ条にもう一ヶ条を付け加えてください」と提案し、持参した「歯間ブラシ」を贈った。その上で仮設の人々に食後の口腔管理に使用してもらうことを指導した。

若い人も高齢者も口腔清掃時、特に歯間清掃をマメにすると口腔機能が活性化し、食物をよく噛んで食べることがでる。さらに身体が活性し認知症を防止、糖尿病を予防することができることを、私の臨床経験から認知症を改善した数人の患者の症例を話し、挨拶に代えた。

○南相馬市役所 桜井市長を訪問

午後4時40分南相馬市役所に到着。田中前市長から熊本地震に対する救援物資と義援金のお礼を兼ねた挨拶。桜井勝延市長とは旧知の仲で復興状況、熊本地震の状況と被災地の話などで短い時間であったが、話し合いは和気あいあいと進んだ。桜井市長は、災害復興で政府と対峙されているのをテレビでよく見ていたので初対面とは思えなかった。

私が企画制作した「人吉町の種田山頭火ものがたり」の小冊子と「人吉アマチュア無線クラブ創立40周年記念誌」を差し上げた。桜井市長も大変お忙しい方で来客が5時過ぎても面会の順番を待っていた。市長室の皆さんが田中前市長との再会をお互いに喜んでおられた。

（つづく）

【なす・ちはる／人吉市】

トランプとピケティ①

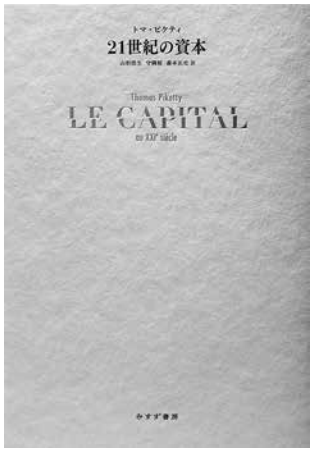
上村雄一

はじめに

トランプ大統領の「アメリカ・ファースト」は刺激的である。世界最大の経済大国の大統領が、なりふりかまわず、「アメリカの利益を最優先にする」と赤裸々に宣言している。「相互互敬」といった繕い言葉（美学）はみられない。無論、どの国の首班（大統領・首相）も自国の「ファースト（最優先利益）」を考える。彼らは、理想に生きるのではなく、いつも「ファースト」を信条に。問題は、どうすれば「ファースト」を実現できるかだ。自国の製品を有利にするために外国製品に対する関税を引き上げて、自国の国民の雇用を確保するために移民を制限するという方法は一見すると「ファースト」のようにみえるけれども、冷静に考えると、それが最良の方法にはみえない。個別的にみて最大の利益になる方法でも、それを全体としてまとめると、最悪の結果になるときもある。それを、経済学では「合成の誤謬（ごびゅう）」という。ミクロの世界の合理性がマクロの世界の合理性に同一だとは限らないのだ。トランプ大統領の発言をみると、彼は「合成の誤謬」に陥っているようにみえる。たとえば移民を排除したら、いまのアメリカ経済は最終的には活力を失うと素人にも予想できる。

トランプは大統領に就任してから政策を変更したのではない。候補者時代の発言をいま公約として実行に移しているだけだ。ところで候補者時代の彼の発言はひどく過激で、それゆえ、彼が、共和党の大統領候補になるとは予想しなかった。ましてや大統領選挙に勝利するとは考えもしなかった。アメリカのマスコミもそうであった。しかし、ちがった。

トランプ大統領の登場にはさまざまな事情が関係している。そのすべてに触れる余裕はないし、とりあえず、その必要もない。アメリカの経済をみるだけで十分である。たとえば、2年前、経済学のある専門書が注目を集めた。トマ・ピケティ『21世紀の資本』である。原本は二〇一三年にフランスで出版、翌年英訳がアメリカで出版された。日本語訳、韓国語訳、中国語訳もでている。原書（フランス語版）九六三頁、英訳版六九八頁、日本訳版七〇六頁の専門書がベストセラーになった。普通、専門書は売れない。しかしピケティはちがった。世界各国で所得格差が拡大し、しかも一国の事情だけではその原因（たとえば、安倍政権だから日本では格差が強まったといった日本的事情だけでは説明できない）が現代社会（資本主義国）に存在しているのではないか、その原因と解決策をピケティは提示しているのではないか、そうした人々の意識が同書をベストセラーにした。



個人の努力では貧困から脱出できないといういら立ちが世界中に広がっている。「はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざりぢつと手を見る」という啄木的世界の常態化である。成功・失敗は個人の才覚・努力の結果にすぎない、貧困は努力不足の結果である、成功者を妬むのは筋違いであるという努力論（新自由主義）は通用しなくなっている。どんなに頑張っても報われないどころか、金持ちはますます金持ちになり貧乏人はますます貧乏になっている。富裕層の子どもは富裕層になり、貧困層の子は貧困層になるという傾向がつづいている。もちろん例外はある。例外はつねに存在するのだ。しかし例外の数が微小になっていくにしたがって努力論は説得力を失う。努力している若者にさらに努力せよといっても反発を買うだけだ。そういう状況のなかでピケティが登場し、そしてトランプが大統領になった。

トランプは候補者時代の公約を忠実に実行しようとしている。その姿勢が最後までつづくかは今のところ不明であるが、彼を大統領にした人々の状況は変化していない。ピケティによりながらアメリカ経済の状況をしばらく考えてみよう。

①ピケティ（Thomas Piketty）。一九七一年にパリ郊外クリシー生まれ。ロンドン大学で博士号を取得。マサチューセッツ工科大学の准教授を経て、二〇〇六年よりパリ経済学院の教授。

②二〇一一年のウォール・ストリートでのオキュパイ運動で、アメリカの若者たちは「われわれは九九パーセントだ」というスローガンをかかげた。「一パーセントの者が富を独占し、残りの九九パーセントが貧困にあえいでいる」と主張した。このとき、すでにピケティはニューヨークで注目されていた。それだけ経済問題（格差問題）はアメリカで顕著であった（本田裕邦「ピケティ現象を読み解く」週刊金曜日一〇二二号一八頁）。

格差問題は、若者の怒りの原因になったが、若者だけでなく多数のアメリカ人の自己認識でもあった。こういうときには、民主党的（オバマ的）な改良主義政策（中間層を厚くする政策）が支持されるようにみえるが、アメリカ国民は、じっさいには富裕層のトランプを選択した。同時に、民主党候補者選挙で、左派のバーニー・サンダース候補が善戦したことも看過できない。

日本も同様である、二〇〇五年（平成一七年）に「富裕層」、〇六年に「格差社会」、〇七年に「ネットカフェ難民」、〇八年に「蟹工船」、〇九年には「派遣切り」が流行った。「勝ち組・負け組」、「ブラック企業」もみすごせない。昨年は、「保育園落ちた、日本死ね」が選ばれた。しかし、政治についてはアメリカと同じく、タカ派的潮流が強力である。

2、ピケティ理論の概要

ピケティは次のように指摘する。

「資本収益率が産出と所得の成長率を上回るとき（19世紀はそうだったし、今世紀もそうなる見込みが高い）、資本主義は、自動的に、自己の意思ではどうにもならず、そのままに放置しておけないような格差をもたらす。そして、これによって、民主主義の基盤である能力主義的価値観を危うくする」（2頁）

冒頭近くの短文だが、彼の主張を要約的に示している。内容的には、3点を指摘している。

（1）「資本収益率が産出と所得の成長率を上回るとき格差をもたらす」

ピケティは、「資本収益率」を「r」、「産出と所得の成長率」を「g」に記号化し（28頁）、

「r＞g」のとき、「資本主義は、自動的に、格差を生み出す」

とし、「rは、資本の収益率で、利潤、配当、利子、賃料などの資本からの収入を、資本の総価値で割ったもので、gは経済の成長率つまり所得と産出の増加率である」とする。つまり「利潤、配当、利子、賃料などの資本からの収入」を期待できる者に彼は注目している。他方、労働分配率つまり経済成長にともなう利益の資本家と労働者の間での分配問題については、ここでは論点化していない。ピケティは、労働分配率（経済成長のうち、資本にいく分と労働にいく分の比率）だけに注目するだけでなく、資本分配率（資本の蓄積率）も分析すべきであるという

（2）「19世紀はそうだったし、今世紀もそうなる見込みが高い」

この指摘は、逆にいえば、「格差が縮小する局面もある」になる。具体的には、一九一四年―一九四六年のアメリカがそうであった。第一次世界大戦と第二次世界大戦に対応する時期で、戦争という外部要因の存在による例外的現象であると推測できるが、理論的には、マルクスの窮乏化論やクズネックの「u字型曲線（ベル・カーブ）」論に対する評価に関係し、そして彼は、マルクスではなくして、むしろ、クズネックの見解を理論的な出発点にするのである。

（3）「格差の発生は、民主主義の基盤である能力主義的価値観を危うくする」

「能力主義的価値観」は、努力した者は報われるという考え方だが、ピケティは、こうした考え方を否定しない。努力した者が多くの収入を得る、それによって収入に違いが生じたとしても、そうした格差には正当な理由があって

不当ではないとする。「格差は正当なものか、理由があるかどうか」にポイントがある。当たり前の結論のようにみえるが、その当たり前の結論を維持できないような状況が存在しているのではないかという点に彼の認識がある。平成二六年（二〇一四年二月二二日）付熊日新聞は彼の考え方を分かりやすく紹介していた（共同通信配信のインタビュー記事）。同紙によると、

①私は格差がなにもかもいけないと言っているのではない。全体の利益になるならば、許されることもある。その点では、ジョン・ロールズと一緒だ。

②行き過ぎた格差に共同の利益はない。経済成長を阻害する。トップ経営者が１０億円もの年俸をもらうなんて、経済効用の面からも、成長の面からも有益ではない。

③行き過ぎた格差は、政治的発言力や影響力で大きな差を生んでしまう。政治献金という形でわれわれの民主主義制度に危機をもたらしている。

④アメリカの教育制度は、とても、不平等だ。ハーバード大学在籍学生の親の平均収入は、上位２％の平均収入に相当する。それ以外の家庭から入学する学生は極めて少ない社会に流動性や機会の均等がアメリカの建前であり、能力主義を掲げているが、現実と大きくかけ離れている。

⑤中産階級が、富裕層に比べて、厳しく税を取立てられているのに、得るべきはずの見返りが不十分と感じれば、社会の連帯は崩れ、ナショナリズムが台頭し、第一次世界大戦のような大災害の再来になりかねない。

⑥数十億ドル（数千万円）におよぶ世界トップレベルの億万長者らの平均資産額は、世界経済の成長率や世界の平均資産額の３、４倍の高い比率で伸びている。

⑦フランスでは１９１３～１４年にはトップ１％の資産家が国富の約60％を専有していたが、そんな状態になって欲しくない。

以上は彼の一貫した主張で、彼の問題意識がどこにあるのかを示している。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

妹の死
―戦後の球磨郡で③

片岡　和紘

五、妹の葬儀

妹の出棺は午後四時を過ぎていたと思う。アブラゼミやツクツクボウシが盛んに鳴き、西の空は茜色に染まっていた。

釘を石で打たれた妹の棺を、墓人足の青年二人が担いだ。墓地は自宅から五百メートル南にある前村組の共同墓地だった。葬列のコースは決まっていた。墓地に行く時は西側から行くコースで、帰りは東側のコースを使った。墓地の真ん前に白髪岳が聳えていた。浄土真宗西派光源寺の住職高丸氏が導師となり親族、お霊屋、棺、葬式組、参列した友人知人、清水開拓団の人たちが続いた。親族は位牌、天蓋、紫の幟、花などを持った。導師は「ナマンダンブ、ナマンダンブ」と読経しながら時折、鈴を鳴らした。葬列は百メートルは続いたろう。

墓地に着くと棺が置かれ、再び導師がお経を唱えた。それまでは横に寝かされていた妹の遺体は、埋葬の時は立てられ座位にされ、改めて両手を合掌の形に組まれた。そのとき、悲しみを堪えていた母が棺をつかんで慟哭した。慌てた信一叔父や正義叔父が母の手を引き離し、みんながもらい泣きした。棺はゆっくりと墓穴に下ろされ、参列の者が小石を棺に投げた。墓人足がゆっくりと土をかけ、やがて棺は見えなくなった。そこにお霊屋が置かれ、位牌が納められた。それから花が飾られ、妹が大切にしていたアルマイトのカップ、セルロイドのアヒルと金魚が供えられた。

かくして葬儀は終わった。

六、先祖供養

葬式の後、母はうつ状態になった。「生きていても何の生き甲斐もないから、死にたい死にたい」と言うように

なった。馬小屋の手綱を持ち出して首を吊ろうとしたので、常に家族の誰かが母を監視するようになった。二人の娘を相次いで亡くし、末の娘まで亡くした母にとっては当然のことだったかもしれない。

昨年十月に、妹をはじめとする鶴田家の先祖供養をしようという話になった。東京にいる末弟が本誌創刊号に掲載された「父の遺稿」を読んで、次々と亡くなっていった鶴田家のことを初めて知って、親族に呼びかけたのだった。今回、それを受けて妹の死を記録することで、戦後の球磨郡で暮らしたある家族の歴史を知ってもらいたいと筆を執った次第である。

七、最後に

昭和二十～三十年代の葬儀は戦死者、法定伝染病による死者を除いては殆どが土葬で行われた。どこにも葬式組があり、ところによっては墓人足、炊事人足、寺人足などに分かれていた。それぞれの任務は巻紙に書かれ、居間などに貼ってあった。私の実家の上村塚ノ脇は三つの葬式組があり前村組、尾別府（おのびゆう）組、下ン段組で、私の家は前村組であった。墓地も厳密ではなかったが、それぞれの組の墓になっていた。一つの組は十五軒くらいで、夫婦二人で出るのが決まりになっていた。嫌がられたのは墓人足だったに違いない。土葬だから腐敗臭がしないよう、犬や狸などに掘られないよう二メートル以上掘らねばならなかった。埋葬時は棺を縦にして、遺体は座位にしたのだった。理由は寝せ棺は場所を多くとるからであろう。掘っているうちに水が湧いて出て、必ず人骨が出たという。お霊屋は小さな家のようなもので、手先の器用な者や大工が作った。前村組は元大工の上渕時吉さんが担当。妹のお霊屋、棺、位牌も時吉さんの手による。

生前、妹を可愛がった時吉さんは涙をポロポロとこぼしながら作ってくれた。妹の墓人足は隣家の渕田寿（ひさし）さんで、二人の姉の墓の隣に穴を掘った。二人の墓穴も寿さんが掘ったのだという。

（おわり）

【かたおか・かずひろ。旧上村出身、愛知県知多郡】

外来語から学ぶ英単語（12）……藤原　宏

フォーラム・フォレスト・フォーリン・フォーリナー
forum　forest　foreign　foreigner

ラテン語「**foris**（フォリス）、戸外で」からの派生語で、語幹の「**for**」が共通しています。

「**forum**（フォーラム）、公開討論会（会場）」は、ラテン語「**forum**（フォルム）、古代ローマの公共広場」がそのままの形で英語に借用されたものです。古代ローマでは都市の中央にあった野外の大広場で、商業の取引や、裁判・政治など公的な行事が行われました。大衆討議では討論終了後に多数決で賛否が決められました。

現在の **forum**（フォーラム）は野外ではなく室内での討論会の他、テレビやラジオ、雑誌上での討論にも使われます。

「**forest**（フォレスト）、森林」はラテン語「**forestis**（フォレスティス）、柵のない戸外」がフランス語を経て借用されたもので、もとは国王や貴族などの狩猟地を意味しました。現在は天然の大森林のことで、人里近くの森は **woods**（ウッズ）といいます。

「**foreign**（フォーリン）、外国の・他地方の」、「**foreigner**（フォーリナー）、外国人」は「外側に住んでいる」が原義で、「よそ者」という軽蔑のニュアンスがあります。

(378)

球磨の珠玉

長年にわたり地方紙の記者として政治、文化、教育など、幅広い分野から情報を発信した著者の珠玉のコラム集。14年間「週刊ひとよし」の巻頭を飾ったコラム370本を精選した一冊。

カバー写真／山口啓二

■A5判／上製／400頁
■定価 2,100円（税込）
送料 200円

人吉中央出版社

伊勢戸　明 著（企画＝人吉球磨総合研究会）
くま春秋
――人吉・球磨を見つめつづけて
発行・人吉中央出版社
発売・風行社

東京オリンピック⑪
会場と競技

苅田吉富

5　東京ベイゾーン 有明

ホッケーは１９６４年の東京大会の時は駒沢オリンピック公園総合運動場・ホッケー場で開催されましたが、２０２０年東京オリンピックでは東京モノレール大井競馬場前駅から徒歩８分の大井ふ頭中央海浜公園内に総事業費48億円で新しく整備される施設です。

バレーボール会場は１９６４年の東京オリンピックでは駒沢オリンピック公園総合運動場・バレーボールコートで行われ、女子が金メダルを獲得しています。２０２０年の東京オリンピックでは代々木に４０４億円で建設予定でしたが、有明に３７０億円で建築することとなりました。

バレーボールがオリンピック競技になったのは１９６４年の東京大会のことで、この大会で優勝した女子日本チームは「東洋の魔女」と呼ばれ、その強さが世界に知られることになりました。

有明体操競技場は、オリンピックでは体操競技、パラリンピックではボッチャ競技場として敷地面積約10ヘクタール、延床面積約３万２千平方メートル、座席数１万２千席の体操競技場と、延べ約五千平方メートルのウォームアップ施設を整備する計画です。

有明体操競技場は当初計画では「仮設施設」として整備し、大会後は取り壊す方針でしたが、「恒久施設」として再活用することになっています。

夢の島公園に整備するアーチェリー会場は、立候補ファイルでは公園内の円形広場南側に恒設の予選会場と仮設の決勝会場を整備する計画でしたが会場再検討の結果、夢の島公園内に整備費二十四億円で整備。取り壊す予定だった「東京スポーツ文化館」も大会の選手控室として活用、公園内に整備を予定していたバトミントン及びバスケットボールの新設を中止するとともに、馬術の競技会場を馬事公苑に変更しました。

有明テニスの森はオリンピックのテニス、パラリンピックの車いすテニスの会場で、東京臨海高速鉄道りんかい線国際展示場駅徒歩五分の場所にある屋外48面のテニスコートと「有明コロシアム」を備えているこのエリアは、日本のテニスの聖地と言われており、新計画では整備費約１４４億円でコートの配置を変更することで大会開催時には37面を整備し、大会終了後には元に戻すこととしました。

【かりた・よしとむ／税理士・行政書士、東京都】

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

春一番山里に吹きちらほらと畑に人影見ゆる頃かな
原発でふる里離れし人思う埋もれる雪に春はくるのに
三原　竹二

しらさぎの雪ふる中に群れなして球磨の川辺をふわり飛びきり
西空にひときわ光る金星のわたしの心を写して返す
坂本　ケイ

「合格よ」孫の明るき電話あり狭庭の椿咲き初めており
戦をば語りたがらず逝き給う母の苦難のいまさら沁みて
上田　廸子

ほの赤く枝まで染めて匂い立つ梅の蕾に顔ほころびて
来週はかならず飾ろう雛人形娘(こ)は知らずとも雨水の内に
宮川しのぶ

トランプに前のめりするアベ首相自国民より米(べい)ファーストか
あれこれと詭弁を弄するアベ首相化けの皮をば剥がすは我ら
吉岡　弘晴

年金で普通に暮らせる世にしたし署名簿抱え初霜を踏む
あの時代に戻してはならじとマイク持つ老いに厳しき寒風の中
上田　精一

マイ・文庫本

『ひとはなぜ戦争をするのか』

白城松男

1932年（昭和7年）7月30日、アインシュタインは、「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか?」とフロイトに質問した。フロイトは同年9月にアインシュタインに返事した。本書は二人の質問と回答を掲載する。訳者は浅見昇吾。

クラウゼビッツは「政治の延長が戦争である」といった。確かに、そうかもしれないけれども、戦争は具体的・身体的である。法律学の「正当防衛」とのアナロジーを通じて戦争を肯定する者もいる。攻撃的戦争には賛成しないけど、防衛活動は人間の本性であるという。外部からの攻撃に人間は反射的に自己を守ろうとするだろうけど、人間の個別的防衛と国家の自衛行動は同一ではない。「自衛行動」の準備をあらかじめすすめているときには、射的防衛ではなく、攻撃を予期した戦闘活動である。軍事力に格段の差があるときには、防衛でなく「過剰防衛」つまり攻撃になる。

『ひとはなぜ戦争をするのか』A．アインシュタイン、S．フロイド（講談社学術文庫・2016年6月）

軍事力を強化するならば攻撃を受ける機会は減少するという意見もある（抑止論）。この意見も、自己は攻撃することはないけれども、他の者は自己を攻撃することがあるというもので、戦争論としては二次的である。

戦争論は、それをつきつめていけば、人間はなぜ戦うのかの問題にほかならい。「外敵」と闘おうという心理は人間の本質（本能的欲求）に、現代的にいえばDNAに規定されていて、人間それから脱出できない運命にあるのか。ここでも個人と集団のちがいの問題が発生する。

アインシュタインの問題意識は明確であった。彼は、質問相手として、政治学者でなく心理学者のフロイトを選んだ。アインシュタインは、人間の心理（心の働き）が戦争に大きく影響していると考えた。フロイトは、それに応えて、心理学の側面から戦争を考えた。フロイトの結論を大雑把に要約すれば、戦国時代、武士は敵を殺すことをためらわなかったが、江戸時代になると、文化が変容し、そうした殺伐性は失われていった。残虐的行為は人間の皮膚感覚上受け入れ不能なものに移行した。フロイトはそうしたことを述べている。本書所収の養老孟司（解剖学者）と斎藤環（精神科医）の解説も説得的である。

【しらき・まつお／八代市】

「柴立姫神社」補論

編集部

柴立姫祭りは19頁の記事のとおりだが、いくつか、補足したい。

史実と伝承

生善院の場合

生善院（水上村巖の里坊）は別名「猫寺」という。第一九代頼房は、頼貞謀反にさいし、無実の住待を殺害した。

生善院（水上村）

住待の母は、子の無実の死を恨み、愛猫に自分の血をすすらせたのち愛猫とともに身を投げて死んだ。その直後から、人吉城内に化け猫があらわれるようになり、次々に不幸が起きたという。その不幸（祟り）をおさめるため第二十代長毎は生善院を創建したとされる。頼貞の謀反は事実であるとしても、「化け猫」騒動は史実であろうか。大半の人はこれを否定し、これに類する「化け猫」の話が他にも存在することを認めるであろう。たとえば佐賀の「化け猫」騒動は有名である。しかも両者

は家督相続に関係している点で類似している。それは偶然の一致であろうか。

柴立姫伝承の場合

人はときとして伝承を史実であると誤解する。柴立姫伝承についてもその傾向がある。父娘相姦はじっさいにあった。そしてそれは「けがらわしい」と考える人もいるようだ。もちろん、そういう事実が史実としてあったかもしれない。同時に、なかった可能性もある。すべては可能性の枠内にとどまる。伝承は、娘が父に性行為を求めたとするけれども、その現場をみたムラ人はおそらくはいない。淋地区のまえに小口地区（芦北町）でも父娘相姦があった（そのときは、父が娘に求めた）とするが、小口地区での父娘相姦をムラ人はなぜ知っているのか。ムラ人のなかに、父娘の姦淫を目撃し、二人の会話を盗み聞きした者がいただろうか。娘は不埒であったというが、ムラ人は娘の死を「不憫」とし娘を祀ることにした。それをどうみるべきか。

小口地区

極端な推論を述べれば、ヒトは、原初的に、男と女の両性を措定し、その両性から子孫が流れでていく姿を想像する。その出発点に父と娘を置くことはアダムとイブとの関係に類似し、われわれを深い神話的世界に誘う。これはあくまでも推論にすぎないけれども、柴立姫伝承はおそらく史実そのものではなく、ムラ内外でのさまざま出来事・噂などを「子孫繁栄」や「交通安全」の観点ですくい上げてつくられてきたのではかろうか。ついでながら、娘の姦淫は、母息子の姦淫が刑事犯罪とされていたのに対して、そうした法規制はなかった。娘に性的行為の方法を父がおこなう例もみられたという指摘もある。少なとも、こうした点についても、われわれは留意すべきである。

人々は柴立姫伝承をなぜ支持してきたか

出産、性病、性器・泌尿器にかかわる人々の不安・心配を一掃してくれる存在であったからこそ、柴立姫は支持されたのであろう。これらの不安・心配は個人の実存だけでなく、共同体の存続・繁栄に直結する重大問題である。医学的知識が普及していない時代、人は神に祈るしかなかった。

人吉街道、修理の瀬に接している点では旅の安全を守る神としても歓迎されたのであろう。柴立姫はそうした人々の願いを満足するに十分である。

伝統的な道祖神信仰、柴立信仰が柴立姫伝承と適合的であった。否、道祖神信仰、柴立信仰を土台にして柴立姫伝承は発生したと考えるのが自然である。

高田素次は昭和11年に淋地区に調査に入っている。彼によれば、「私がこのお堂に行ったときも、仲居らしい年増に連れられて何人かの若い奴たちが参りに来ていたことを思い出すが、病気はともかく、商売する奴たちは、商売繁盛の為にもお参りに来るものが多いらしい、とあの頃は思ったことであった。」（『まんちんたん』（昭和33年9月29日89頁以下）。

高田の記憶は誤りではなかったろう。性器崇拝の社に「商売繁盛」とのために参拝する例は全国各地にみられる。

お堂は別の場所にあった

高田・前掲書は、高田が宿泊した旅館の女将の話として次の逸話を紹介している。

大正のはじめの頃、ムラの巡査が、柴立姫の堂をみて風紀上好ましくないとして、球磨川にお堂を捨てた。すると、その巡査が梅毒（「トモヤエ」）にかかり、どうしようもなくなった。そこで巡査はいまの場所に祠を建て祀った（元の祠は、トンネルの近く〈「うちびら谷」〉にあった）。すると梅毒は治った。それが評判になり、町の人も参りに来るようになった。

例大祭日

旧暦3月4日である。それは、父が娘を切った日、つまり柴を立てた日でないかとする人もいる。しかし、以前は3月

3日の桃の節句にとりおこなわれていたのではなかろうか。桃の節句は女の子の成長を願う節句であると同時に、「上己の節句」で身を清める日である。そこで、桃の節句と区別するために1日ずらして祀ることにしたのではなかろうか。

《トピック》

落人伝承との関係

伝承によると、父娘は芦北方面からやってきて先を急いでいた、そして小口地区（小口村）で娘はつかれ果て動けなくなってしまったという。父娘が先を急いだ理由について伝承はなにも伝えていない。しかし、近くの箙瀬地区の伝承などと重ねあわせるとき、戦さに敗れた武士の落ちいく物語と関係しているようにみえる。小口地区と淋地区の間には江戸時代には改所（大坂間改所）があって通行人を監視していた。しかし、芝立姫伝承では番所の話は出てこない。

大阪間番所跡

シバ神（インド）との関係

高田素次前掲書は、「シバガミ」という名前からインドのシバ神との関係を指摘する人がいる旨を紹介している。シバ神は破壊と再生の神であるが、高田は「そのへんのことは私はよう知らない」としている（92頁）。

復刻掲載

字図で見る球磨の地名 ⑪　上村重次

諏訪（スハ）

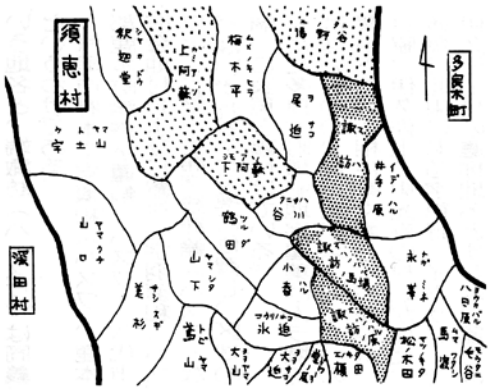
―須恵村（現あさぎり町）―

諏訪地名は諏訪神社に由来する、というのが一般的な説明である。確かに諏訪という所には諏訪神社が鎮座する例が多い。しかし、諏訪神社所在地が諏訪地名とはかぎらない。

須恵村の諏訪は字諏訪、字諏訪ノ馬場（スハノババ）、字諏訪ノ原（スハノハル）の三字名に分かれている。旧村社の諏訪神社は字谷川にあるが『球磨郡誌』によると「天文二十一年（1552）に現在地に遷座したもので元は久留須山にあり、今なお諏訪野原という」とのこと。これによって、須恵村の諏訪は神社名に由来するという説には一理があることがわかる。

諏訪系神社は長野県諏訪市の諏訪大社を頂点とし全国に数千社がある。『熊本県神社誌』を見ると県内の神社三二三七社のうち諏訪系は五三社あり、うち球磨には五社がある。有力神社はバックの勢力によって傘下の社数を伸ばしてきた。国と伊勢、平氏と厳島、源氏と八幡、宗像氏と宗像、阿蘇氏と阿蘇というように、それぞれの豪族の力関係によって全国区型、地方区型、ローカルタイプの分布図を示している。

その一方では天神、山神、水神などの自然神は特定の支援勢力がないままに全国に広がっている。諏訪神は全国区型であるのに対し、諏訪氏は信州を主地盤とする地方豪族である点に注目すると、この神のルーツは天



【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。市町村合併前の地名となっていますが、ご了承ください。

神・山神などに近似する性格であったことも考えられる。むしろ、スハ（スワ）という地名が全国に点在していて、同名の由縁によって諏訪神が勧請された、とする方が理解しやすい。

とすれば、スハとは何であろうか。『日本地理志料』は信濃国諏訪郡の項で「諏訪はスフマリのつづまり」とする本居宣長の説を掲げている。『大言海』によると、スフマリはスブを語根とする言葉で「スボム（末、次第に細くなる）」と同じ。統（すぶ）も同系という。

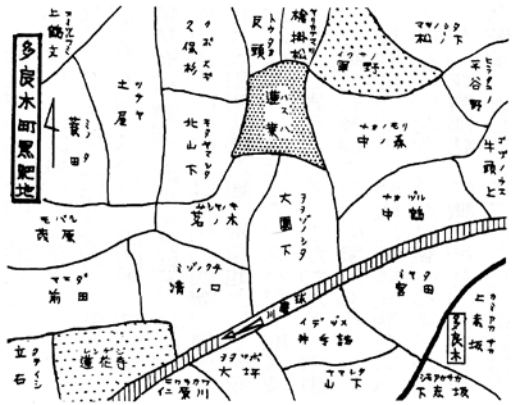
土地区域の名称、即ち地名としてのスハ（スワ）は区域の先端部ということになる。『和名抄』に見えるスハ地名としては周防国（スハウ）、周防郡、諏訪郡、諏訪郷、信濃国小縣須波郷などがある。周防国（山口県）は本州の西端、信州諏訪は大和朝廷勢力圏の僻遠地として流罪地になっていたほどで、スハが土地区域の端っこ表現であることがわかる。須恵村の諏訪も多良木町との境にある。

球磨地方で古い時代に区域先端をスハと呼んでいたかどうかは調べるすべがないが『球磨郡誌』に諏訪神社の旧地名を久留須山としていることから、或いはクロスミと称したのかもしれない。クロはアゼクロのクロ、スミはスミツコのスミである。クルス地名については筆を改めよう。

蓮葉（ハスハ）

―多良木町黒肥地―

蓮葉という地名はわかりやすいようで難解でもある。植物地名とみればハスの葉が水面をおおいかくすように繁っている所、と解される。それなら蓮田とか蓮池でよかろうし、ハスの葉は夏の時季に茂り冬は枯れてしまうから永続性が求められる地名としては不向きな気がする。『大言海』を見ると「はすは　斜端（ハスハ）の意か、或は蓮葉の義か」とあり、蓮葉は身



持ちのよくない女、軽はずみなこと、浮気者などの別称としている。

地名用語としては、ハスッパは論外であり、斜端は農業用語として使われるので地名化することもあろう。斜端は端金（はしたがね）などと同系の語でコンマ（単位）以下の表現。田植の正条植えや、畝立（うねたて）の際、隅っこに残った部分をハスワと言うのが斜端のことであろう。しかし條里制の区画割に伴うものはともかくとして、字名区域は形状が一定しておらず、どこも斜端ばかりであるから、特定の区域をハスハと呼び蓮葉の漢字で表現された、とするのは合理性に欠ける。

球磨地域では間食のことをヨケマンというが、これは憩間（よこいま）の転化であり、島根県などではハスワグイと言う。『日本方言大辞典』はハシマ（箸間）がハシマグイ、ハスワグイに転化することを例証しており、地名の蓮葉とは結びつきそうもない。

考えがカラ回りしているうちに、ハスハは諏訪の端、つまり区域の端っこであろうと思いついた。玉名市に片諏訪（かたすわ）という大字地名がある。伊倉台地の南端に位置する旧村の村名で〝片〟は片田舎（かたいなか）の片（偏）や身体の肩などに通じる語で、諏訪（スハ→すぼまる）と意味は同じ。即ち片諏訪という地名と、端諏訪（ハ・スワ）は同義というわけである。

荒尾市府本字皮須和（ハスワ）、鹿本郡鹿本町津袋字蓮輪（ハスワ）、八代市旧会地村および日置村の字羽須和（ハスワ）、本渡市下浦字波洲輪（ハスワ）などはいずれもムラ境に位置し、区域の端っこ表現を裏付けている。

ただ多良木町黒肥地字蓮葉はムラ境ではないものの、寛元元年（１２４３）の関東下知状（相良家文書）に古多良木、竹脇、伊久佐上、東光寺の村名が見え、蓮葉の北東にある字軍野（イクサノ）を伊久佐上村の遺称地名とすれば、蓮葉は当時の村域の先端部であったことも想定できよう。

また西南、球磨川べりの字蓮花寺（レンゲジ）は寺名にちなむ地名というよりも、先端をハスのハナと称した所が寺地になって蓮花寺の寺名になったという仮説も可能であろう。地名に用字される蓮は端の意が多いのは現実である。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

おっとわっとあすび

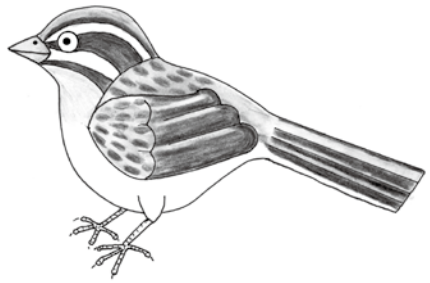
その❶

絵と文／松舟博満

ばったわな

メジロんごてぇようさえ（鳴く）おったで、メジロとホジロ（ホオジロ）は、たいていん者んがこう（飼う）とった。ホジロはたいていが一匹で高っかとけぇほうで（止まって）メジロんごてぇ高ざえ（高い声で連続して鳴く）しおったで、春んひなれば、なわばりんあっとじゃろう、おっ（居る）場所んきまっとった。

前は、稲ん取れた田んなかで、竿ん架けてんイネホシ、そっからムシロば広げてんモミ落とし、そんの終ゆれば、実のちぃとっと、実のひゃっとらんシイラモミば、篩いわくっためん唐箕ばつこうてしおいやぃたで、そんの篩い粕んシイラモミんなきゃ実のちぃとっとんあっとばしじゃろう、まだなわばりんなかっじゃろう、ホジロどんは、拠って集ってシイラモミん中からあせくって実のちぃとる餌ば見つけ、ひるうて食いおった。

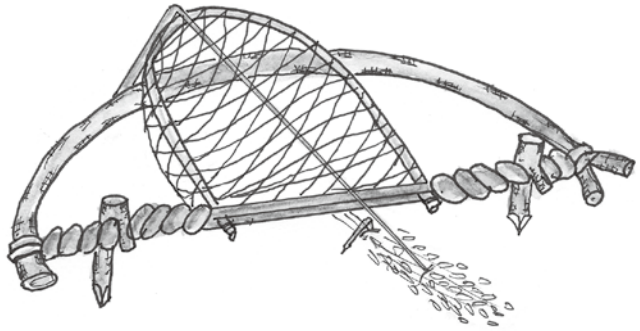


ホジロ

じべた（地表）ん餌ば食う鳥ば捕ってにゃバッタワナば作っよった。樫の木ん二又んなっとこんの枝ば一寸ぐりゃあで、うち切って残りんまっすんか所らぁ三尺ぐりゃあで、うち切ってしもうて、弓ん棒ば作ってうぇて、取ってきたカズネカズラ（くず）の太かなっば半分に引きしゃあて、小みんかなっばそんままで、カズラの長さの半分の所っをば枝ん引っ掛けてすっぽ抜けんごて巻きつけてから、棒ば踏んつけて弓んごてぇ曲げて弓んなっごてぇカズラばおっとれんごてぇいつけて（結んで）二本カズラの弓ば作ってうぇて、

カラ竹の節ば真ん中んして長さば二尺ぐりゃでうち切って幅は三分ぐりゃで削って、網んいっちゃぶれ（破れ）んごてぇ角ば丸うしておけば、手にセビラ（棘）もぬからんじゃったで、そっば半丸に曲げといて、

薩摩瀬ん師は、投網や張り網でイヲ（魚）をば捕っおいやいたで、そこん子どんにたぬうで（たのんで）いっちゃぶれて（やぶけて）修繕もしわゃなんげぇひなったとをば、一尺ぐりゃん広さで、うち切ってもろうたとば、半丸に曲げとった竹ば　網ん目ばかたっごうし通えていき、網の三箇所ば通えたなっば、竹の角っぱしん紡績（タコ糸）ばくびつけて半丸んもどらんごてぇ、同んじごてぇ網の目ば通して、まぁ一方ん方にくびつくれば網のでけたで、そっば弓ん二本のカズラん真ん中に通えて、グルグル回わゃて、バネば作ってそのまんま伏せて、網の両側に枝ば付けた杭ばさかしんみゃ打ち込んでバネで浮き上がらんごてして、網ば引き上げて、そんの真ん中きゃ実のちぃとる稲穂ば五・六本束ねて元ん方ば、おっ取れんごてぇいつけて、おとりん餌んして小みんか杭でとめて、茅の茎で作ったチリンコば、弓ん外側に差し込んで、引き上げた網ん真ん中で折って先ば餌の稲穂に引っ掛け、鳥ん餌ば突くじれば、チリンコの外れてバネんちからで、鳥ばうちかぶせる。



ばったわな

【まつふね・ひろみつ。青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

字遊空間③
「せ（瀬）」を考える。

平岡優平

1、「瀬」

「瀬」は形成語である。形成語とはなにか。意味を表す部分と保とを表す部分でつくられた字をいう。「瀬」の場合、水を示す「さんずい編」と「ラ」という音を示す「頼」が合わさってできた（白川静『常用字解』（平凡社））。水が流れるとき「ラ」という音がするというわけだが、「逢瀬」や「年の瀬」といった用例（機会・時間の意味）もあって、なかなか、ややこしい。しかしながら、それでも球磨川流域には、「瀬」のつく地名が多いけれども、それは水（川）と無関係ではないだろう。

2、「せ」

重複する部分もあるけれども、高校生用辞典の『三省堂現代国語辞典』で、「せ（瀬）」の意味を確認しよう。

①川の流れの浅いところ。用例：「瀬を渡る」、「浅瀬」。反対語は「淵」。
②川の流れの速いところ。用例：「瀬を乗り切る」、「瀬を下る」、「早瀬」
③機会・場合。用例：「逢瀬を楽しむ」、「浮かぶ瀬がない」。
④場合・立場。用例：「立つ瀬がない」。

ところで、逢瀬は「男女が人目をしのんで会うとき」を意味するが（三省堂国語辞典）、『新解』さんは、瀬について「なんとか、その事ができる場合の意に用いられる」として、「逢瀬」を例にあげている。『角川必携国語辞典』も瀬には「ぎりぎり」の意味合いが含まれているとする。

3、球磨川の瀬

『三省堂現代国語辞典』がいう「せ（瀬）」の二番目の意味の例を具体的に紹介しよう。

「八貫の瀬（球磨村）」

昔、問屋が佐敷からイワシやサバを荷車で運んでいた。このあたりに来ると何者かが現れ、荷車を後押しした。気がつくと十貫だったものが八貫に減っていた。タヌキやキツネがその後押ししたのだろうと噂された。そのことから八貫の瀬と呼ばれるようになったのであろう。

それぞれの瀬の名前には由来がある。みなさん、ご存じですか。

【ひらおか・ゆうへい／八代市】

①八貫の瀬（球磨村）

②二俣の瀬（球磨村）

③槍倒しの瀬（球磨村）

くまがわ学習塾　③

※答え合わせは次号でおこないます
前回の答え合わせは 85 頁で。

問１、次の計算をしなさい。

① 15 × 15=？
② 25 × 25=？
③ 35 × 35=？
④ 45 × 45=？
⑤ 55 × 45=？

問２、次の問題を解きなさい

① a ＋ b ＋ c ＋ d ＋ e ＋ f ＋ g ＋ h ＋ i ＋ j ＋ k ＝ 55
② a ＋ k ＝ 10
③ b × j ＝ 18
③ c ＋ i=10
④ d ＋ h ＝ 10
⑤ e × g ＝ 24
⑥ f ＝?

問３、次の問題を解きなさい

① a ＋ b ＋ b ＝ 20
② b ＋ 2 c ＋ 2 c ＝ 9
③ b ＋ c × a=15
④ a ＋ a ＋ a ＝?

問４、（　　）を埋めよ。

１、今年は、新憲法制定（　　）年である。
２、球泉洞駅の旧駅名は（　　）である。
３、球磨村は、（　　）村、（　　）村、（　　）村の三村合併により生まれた。
４、百太郎溝、（　　）溝は昨年 11 月に「世界（　　）遺産」に登録された。
５、（　　）は、1962 年、熊本県内初の公共文化施設として八代城本丸西隣に建設された。

問５、○か×か

１、明治維新後、八代県が設置された時期があるが、人吉県が設置されたことはない。
２、相良家は海外貿易をしたことがある。
３、重盤岩眼鏡橋は芦北町にある。
４、山頭火は肥薩線を利用したことがある。
５、開高健の処女作の舞台は八代の干潟である。

問６、○か×か

１、漱石は、小説中に、大槻文彦『言海』を登場させたことがある。
２、日奈久には「温泉神社」がある。
３、白石駅は球磨村にある。
４、瀬戸石ダムは球磨村（右岸）と八代市坂本町（左岸）の設置されている。
５、「上蔀」という地名は芦北町と球磨村の両者にある。

問７、（　　）を埋めよ

１、原敬は、（　　）県の出身の総理大臣である。
２、岸信介のあとの総理大臣は（　　）である。
３、「百済王氏（　　）」は百済出身の氏族である。
４、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康は、現在の（　　）県の出身者である。
５、ルイス・フロイスは（　　）出身のイエズス会士である。

問８、関係するものを線で結べ

①田山花袋	イ．八代城築城
②井上微笑	ロ．山田伝助
③高木惣吉	ハ．連歌
④小西行長	ニ．人吉駅前時計台
⑤犬童球渓	ホ．柳田邦男
⑥加藤正方	ヘ．荒瀬ダム
⑦澤田一精	ト．東条英機
⑧西山宗因	チ．横井小楠
⑨西福寺	リ．夏目漱石
⑩徳富蘇峰	ヌ．キリシタン
⑪線香屋定吉	ル．写真家
⑫東儀一郎	ヲ．旅愁

鶴鴿短歌会

二月詠草

節分ける梅一輪の季節なれど名のみの春に心和ませ
肩濡らし梅くもらせる春の雨しぐれの中に相合い傘で
守永　和久

白鳥の渡りを待ちて堤防にカメラマンの黙して立てり
山茶花の散り行くはなびら風に舞ひ蒼いキャンバス紅く染まりぬ
河内　徹夫

夫逝きて背に貼る湿布不自由だと話しし友の訃報聞きたり
寝入りたる夫の寝顔が母に似て見慣れし様に暫し見詰むる
中村美喜子

酉の年傘寿の誓いは誕生日バイクに乗りて高千穂峰へ
立春に病に出遭ひし吾なれど傘寿となりて自然に任す
西　武喜

車いす腰痛をかかえて押す様は寂しかったり悲しかったり
春を呼ぶ植木市は活気あり売買するひと大声だして
釜田　操

戦時下に幾度も聞きし流行歌サヨンの歌は今も忘れじ
世知辛い浮世に生きる吾なれど笑ひ惚けて生きてゆきたし
緒方　保正

年賀にて互いのことを思いやる年の始めの楽しきことよ
三年ぶり神社巡りでばったりと知人に出逢いて元気を貰ふ
中原　康子

鵯は可愛い名前で呼ばれども庭の野菜を芯まで食べて
幾つもの病院通いをしてをれば消毒匂いも微かになりぬ
三原　光代

庭先の紅梅ふくらみほんのりと三寒四温と春はそこまで
庭先の春の足音梅に聞き花見日和を蕾で数ゆ
橋詰　了一

初詣で里宮神宮を訪ぬれば鳥の彫刻素晴らしきかな
三が日青井神社の人の波人に請われて案内役に
宮山都保美

時暫し止まれる如き廃校の風がふらここ少し揺らして
途切れなく桜吹雪の舞ひ散りて波立つダム湖に錦を織りぬ
堀田　英雄

倉敷便り③

原田 正史

※本稿は筆者の調査に基づいた私見的論考として掲載いたします。（編集部）

本栄寺の墓碑

倉敷市美観地区東側に隣接する本町には、平成十二年に調査した法華宗本栄寺があります。本栄寺の北側には鶴形山と呼ばれる円錐状の小さな丘があり、その周辺部に階段状に広がるように本栄寺の墓地があります。

この墓地には、隠れキリシタン墓碑と思われるものが二基存在しており、そのうちの一つが、高さ約一mの花崗岩製円柱墓碑です（図①）。墓碑には「正徳六年丙申（1716年）正月二十五日」と刻記されています。六代将軍徳川家宣の時代であり、人吉球磨では相良家二十四代長興公の時代でした。

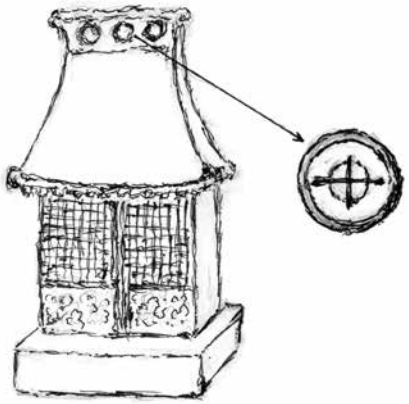
図①

問題なのは通常のように正月二十五日とせずに、正月二十五日と、小さな十字を並記していることなのです。これは隠れキリシタンの人が、「やむなく仏教徒の墓を使用してはいますが、私はキリスト教徒です。天の神様、よく見てください。小さく二つに分けた十の字は十字架なのです。どうか私を昇天させてください」と願い伝えているのです。

この様な事例は、全国各地の隠れキリシタン墓碑に多く見られるもので、人吉球磨でも同様の事例をいくつも見ることができます。また倉敷市の江戸時代墓地には、私が家型墓と命

名した、家の形に加工成形された墓碑が存在します。不確定ながらも一応、江戸時代初期のものと思われます。使用された岩石は「手島石」と呼ばれているらしい、柔らかな黒色凝灰岩（溶結凝灰岩かも）です。また墓地内に存在する基数は僅かです。

図②が隠れキリシタン墓碑と判断される全高約五十㎝の家型墓であり、



図②

全面に細かな彫刻が施されていますが、風化がはげしくて年紀などの文字類は完全に消失しています。屋根部分の上部に丸形の図形が三つ刻記されており、中央の丸形図形の中に十字の存在が認められ、隠れキリシタン墓碑であることを明示していると言えるのです。

平成十二年に倉敷市で調査したのは、寺院墓地二ヶ所と通常墓地一ヶ所の三ヶ所にすぎません。かなり広い倉敷市の面積からいえば墓地数は相当なものだと思われますので、未発見の隠れキリシタン墓碑の数も、かなりのものだと思われます。今後の調査研究が待たれるところです。

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

前号【くまがわ学習塾②の答え】

問１、夏目漱石は熊本第五高等学校に赴任している。次のうち正しいものを選べ。

①校長として
②国文学の教師として
③ドイツ語の教師として
④漢文教師として
⑤英語教師として

正解は⑤

問２、次の計算式を解け

🔥 × 🔥 × 🔥＝２７
🔥＝３
☎ × ☎ × ☎ × 🔥＝２４
２４÷🔥＝８
☎＝２
🔥 × ☎ × ☆ × ☆＝９６
３ × ２ × ☆ × ☆＝９６
☆ × ☆＝１６
☆＝±４⬅ここがポイント!!
☆ ＋ ☎ ×🔥＝?

（±４） ＋ ２ × ３＝ 10 または２
解答＝ 10 または２

問３、次の（　　）を埋めよ。

①球泉洞駅の以前の駅名は（大坂間）駅である。
②日本三大急流は、球磨川、（最上）川、富士川である。
③彦一は、現在の八代市（通）町に住んでいたと伝えられている。
④瀬戸石ダムは、球磨村と（芦北町）の間にある。
⑤鉄漿は、（お歯黒）のことである。

問４、次の地名にふりがなをつけよ。

１、上蔀（うわしとみ）　２、合戦峯（かしのみね）　３、蛇籠（じゃかご）
４、馬廻（まめぐり）　５、楮木（かじき）

問５、次の文章で正しいものはどれか。

①賃金が上昇しているときには、国民年金は下がらない。
②アメリカ合衆国の裁判所は違憲立法審査権を有しない。
③ＥＵの本部はベルリンにある。
④アフリカ大陸でオリンピックが開催されたことはない。
⑤ロンドンには市長はいない。
⑥南スーダンはスーダン共和国の一部である。
⑦公民館の業務は条例で定めるとされている。
⑧僧侶に対して、お経をあげるように法的に強制できない。
⑨アメリカ合衆国の初代大統領のワシントンは就任演説をしていない。
⑩夏目漱石は国語辞典を１冊ももっていなかった。

正解は「⑧」（大審院判決）。それ以外はすべて誤り。

問６、以下は球磨川の瀬の名前である。読みをかけ。

１、筌の瀬（　ウケのセ）　２、高音の瀬（タカオトのセ）
３、小石の瀬（ケシのセ）　４、綱繰の瀬（ツナクリのセ）
５、箙瀬　（エビラセ）

山に行こうよ！ その❺

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

竜峰山
標高 517 m
八代市

2017年1月9日（月）
天候：晴れ
参加者：8名

予定の1月8日が雨の予報のため翌9日に変更。朝少し降っていた雨も上がり、参加者8名で2台の車で8時10分人吉を出発。高速道の八代インターを出ると程なく登山口入り口の看板あり、少し登って行くと両側にたわわに実をつけたミカン畑が続く。駐車場の広場に着くと、そこからは眼下に八代の町が一望できた。

各自準備体操を行い、9時いよいよ登り始める。途中、木道の階段の直登コースと、らくらくコースの二手に分かれて登る。10時、竜峰山山頂着。頂上は開けていて眺めが良い。しばし休憩後、竜ヶ峰へ出発。

雨の影響で崩壊していた林道

最初は土フカフカの歩きやすい山道を、自生しているお茶の木、やぶ椿の小さい花やキノコなど見ながらのんびり歩くが、程なく大小の岩が道を遮るように横たわる。所どころにロープが渡してあり、つかまりながら登り下りして竜の岩屋、鞍ヶ峰を過ぎ、竜ヶ峰に到着。11時45分。

昼食を取る時になってあいにくの小雨、それぞれ雨の当たらないところで食事をする。眺望が良く、写真を撮ったりしている間に雨もやみ下山開始。12時25分。

来た道をひたすら歩く。雨の後の下り道を滑りそうになるのを踏ん張りひたすら下山。帰りはらくらくコースを全員で下りるがなかなか急な下りコース。14時50分、駐車場到着。

人吉、16時解散。疲れたけど、楽しい山行ができました。岩場や坂道にてこずる私をサポートしてくださり、ありがとうございました。

【西 尚子】

話題を追って

幸野溝・百太郎を歩く
25日に世界かんがい施設遺産登録記念イベント

昨年11月に「世界かんがい施設遺産」に登録された幸野溝と百太郎溝の歴史と魅力に触れる登録記念ウォークイベント「春の奥球磨＊幸野溝・百太郎溝を歩こう」が3月25日、湯前町と多良木町を中心に開催される。

このイベントは、300年以上もの歴史を持つ球磨郡の水路の重要性を学び、春の奥球磨の豊かな自然や味覚を楽しむもので、両施設の見学や地元の文化財を探訪する。

参加費は昼食代・保険代を含んで1500円（中学生未満は無料）で、申し込み締切は3月17日。問合せは「水土里ネット百太郎溝」（☎0966・42・2075）まで。

『はなちゃんのみそ汁』を上映
映文協「ひとよし映画祭」

人吉くま映画文化協会主催の「第29回ひとよし映画祭」では『はなちゃんのみそ汁』を3月18日（人吉市カルチャーパレス）、同26日（多良木町多目的研修センター）で上映する。

お問い合わせは同事務局（☎070・1239・1950）へ。

すべての人を自分の親だと思って…

○特別養護老人ホーム
○回帰入所生活介護
○通所介護事業所
○訪問介護支援事業所

社会福祉法人 元雪会
龍生園

〒868-0066 人吉市下原田町原生田1057-9
[illegible] ☎0966-22-9621 FAX 0966-22-9622
在宅部門 ☎0966-22-2141 FAX 0966-22-2183
http://park5.wakwak.com/~ryusalen/
e-mail:tenunkai@ab.wakwak.com

編集後記

左のお知らせにあるように、事務所を移転した。年度末を避けて、その前に済ませようとの目論みであったが、様々な手続きで待たされてイライラ、結局2月もすでに引っ越しシーズンなのだと思い知らされた次第である。★今月号は球磨村の魅力を取り上げた。自然の豊かさや伝承のユニークさなど魅力ある地域だと感心させられた。今後も流域の魅力を掘り起こし、記録していく場にしていきたいと考えている。★創刊から12冊を送り出しもうすぐ一年、様々な試練を受けた熊本だが、本領を発揮するのはこれからであろう。4月に生まれた本誌だが、まだまだ反省点も多く、見直しも必要であると考えている。忌憚ないご意見をいただいた上で、2年目をスタートさせたいと思う。（ま）

【事務所移転のお知らせ】

本誌編集部ならびに「人吉中央出版社」の事務所を3月1日付で左記に移転いたしましたので、ご報告いたします。

〒868―0015
熊本県人吉市下城本町1436―4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hitoyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966・23・3759

インフォメーション

開催中

▽「人吉球磨は、ひなまつり」（人吉球磨地域一帯、～3月20日）
▽冬季特別展覧会「笠鉾大解剖Ⅱ～しゃれた町印・本蝶蕪～」（～3月20日、八代市立未来の森ミュージアム）

3月18日（土）

▽人吉くま映画文化協会「ひとよし映画祭」『はなちゃんのみそ汁』上映会（人吉市カルチャーパレス）、26日（多良木町多目的研修センター）
▽相良古文書研「ふれあい歴史ウオーキング」須恵地区の文化財探訪（東免田駅駐車場集合）

3月19日（日）

▽球磨人吉地区県立高校4校合同説明会（人吉市カルチャーパレス）
▽第46回湯山温泉桜まつり（水上村ダム湖周辺一帯）

3月20日（月）「春分の日」

▽相良三十三観音めぐり春の一斉開帳（人吉球磨地域一帯）
▽「人吉球磨は、ひなまつり」エンディングセレモニー（くま川下り発船場）
▽第3回あさぎり町「日本遺産文化財めぐり」（同町生涯学習センター集合）

3月25日（土）

▽城下町人吉の日本遺産を歩く「相良藩城下町コース」（人吉市中川原公園集合）
▽繊月カップテニス大会（人吉市田野町テニスコート）
▽県内装飾古墳の春の一斉公開（人吉市「大村横穴群」、錦町「京ガ峰横穴群）
▽世界かんがい施設遺産登録記念イベント「春の奥球磨＊幸野溝・百太郎溝を歩こう！」（多良木町役場駐車場集合）

3月26日（日）

▽第6回大畑駅桜まつり（JR大畑駅周辺）
▽海棠まつり（人吉市下原田町石水寺境内）

4月2日（日）

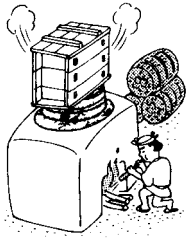
▽さかもと菜の花フェスタ2017（坂本町グリーンパーク集合）

TAKEDA Eye Clinic
たけだ眼科クリニック
院長 竹田 憲司
人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの
アイ ウェア槇（まき）
（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097

デイサービスセンター いずみ
ケアプラン作成所いずみ（居宅介護支援事業所）
協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の技



御膳醤油
（だし入り万能しょうゆ）
・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に
300ml 650円（税抜）

◆納豆みそ
477円（税抜）

◆納豆みそ
（お徳用）
300円（税抜）

◆みそ煎餅
477円（税抜）

人吉散策コース 九州相良 蔵めぐり
みそ・しょうゆ蔵

資会社 釜田醸造所
会長 釜田元嘉
社長 釜田顕
〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話（0966）22－3164
FAX（0966）22－3165
メール info@marukama.co.jp